

公民連携のまちづくりセミナー

**町内外の地域経営資源を活用し、
地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!**

2024年7月7日 浪江町

廣 常 啓 一



I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

廣常啓一（ひろつね けいいち） 株式会社新産業文化創出研究所 代表取締役所長

1960年大阪府堺市生まれ。立命館大学(文学部、産業社会学部)卒業後、日本経済新聞グループの日経広告にてマーケティングやクリエイティブディレクターや1990年国際花と緑の博覧会 屋内展示プロデューサーなどを経て、2005年新産業文化創出研究所(通称ICIC)を設立し、代表取締役の所長を務める。東京都港区在住

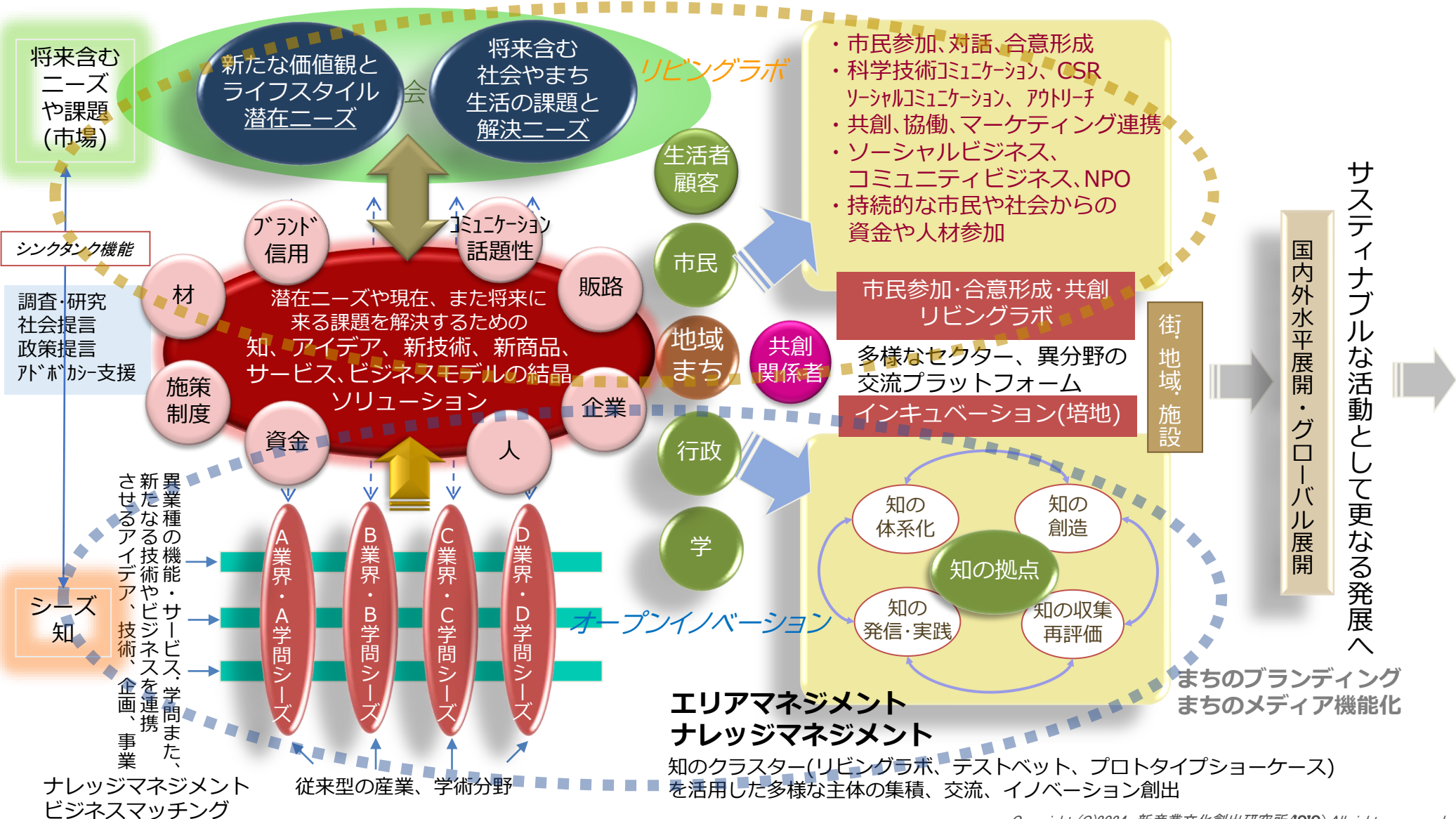
社会や地域課題の解決に資する新たな産業・文化の創出とそれをまちづくりに活かすことを目的としたシンクタンク兼、その実現のためのプロデュース機関でそのためのプラットフォーム機能や知の拠点施設(秋葉原UDX)を企画運営、その他、グランフロント大阪などのコンサルティングを行う。特徴として街づくりや都市計画、施設計画とその中身としての産業や文化創出の機能創造を行う。

- ・最近、銭湯巡りしています。
- ・港区の住まい近辺で、地域主体のリビングラボ仕掛けています。

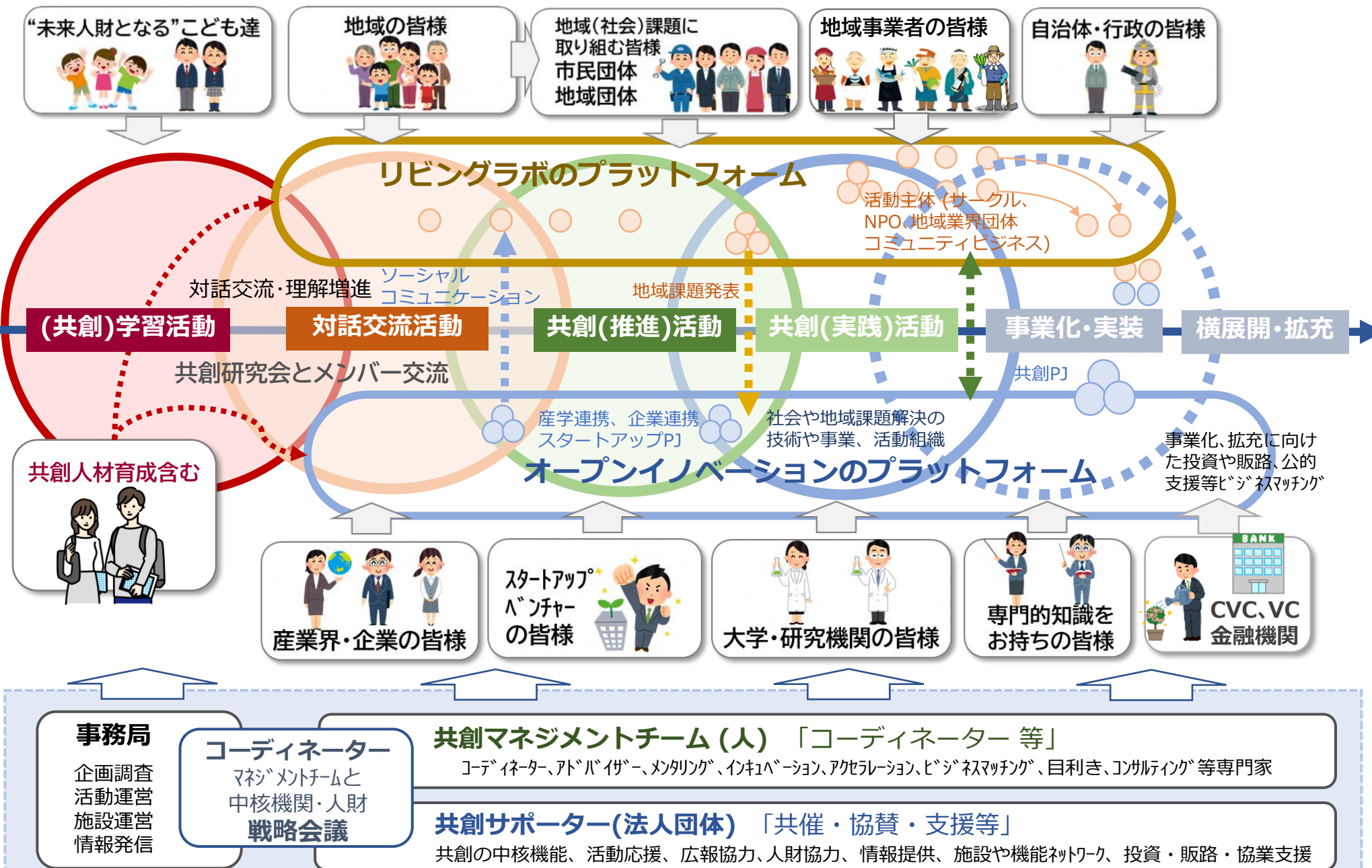


- ・株式会社 新産業文化創出研究所（ICIC） 代表取締役所長
- ・帝塚山学院大学 特任教授 社会連携機構
- ・大阪公立大学大学院 都市経営研究科 客員講師
- ・東京都立大学The Tokyo U-club理事
- ・公益財団法人りそなアジアオセアニア財団 理事
- ・公益社団氷温協会常任理事
- ・一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団 理事
- ・一般社団法人全日本司土協会 理事
- ・独立行政法人科学技術振興機構 RISTEX社会技術研究開発センター SOLVE-SDGsアドバイザー
- ・独立行政法人都市再生機構 まちづくり支援専門委員
- ・NPO法人秋葉原観光推進協会理事
- ・NPO法人元気な120歳を創る会理事
- ・NPO法人キャンサーネットジャパン評議委員
- ・みんなのエネルギー会議代表
- ・グローバルヘルスイニシャティブ 代表幹事
- ・公益社団法人2025年日本国際博覧会協会委員（事業者選定）
- ・一般社団法人2025年日本国際博覧会大阪パビリオン委員（事業者選定）
- ・その他

新たな社会課題解決策や市場対応に異分野連携(公民連携や異業種連携、産学連携、地域連携)が重要で、まちを培地(テストベットや共創、プロモーション)として活用し、まちのブランディングを実現する。



共創の理解から共創対象者を含む交流、共創推進、社会実証、実践と公民連携 4



「オープンイノベーション機能」と「リビングラボ機能」

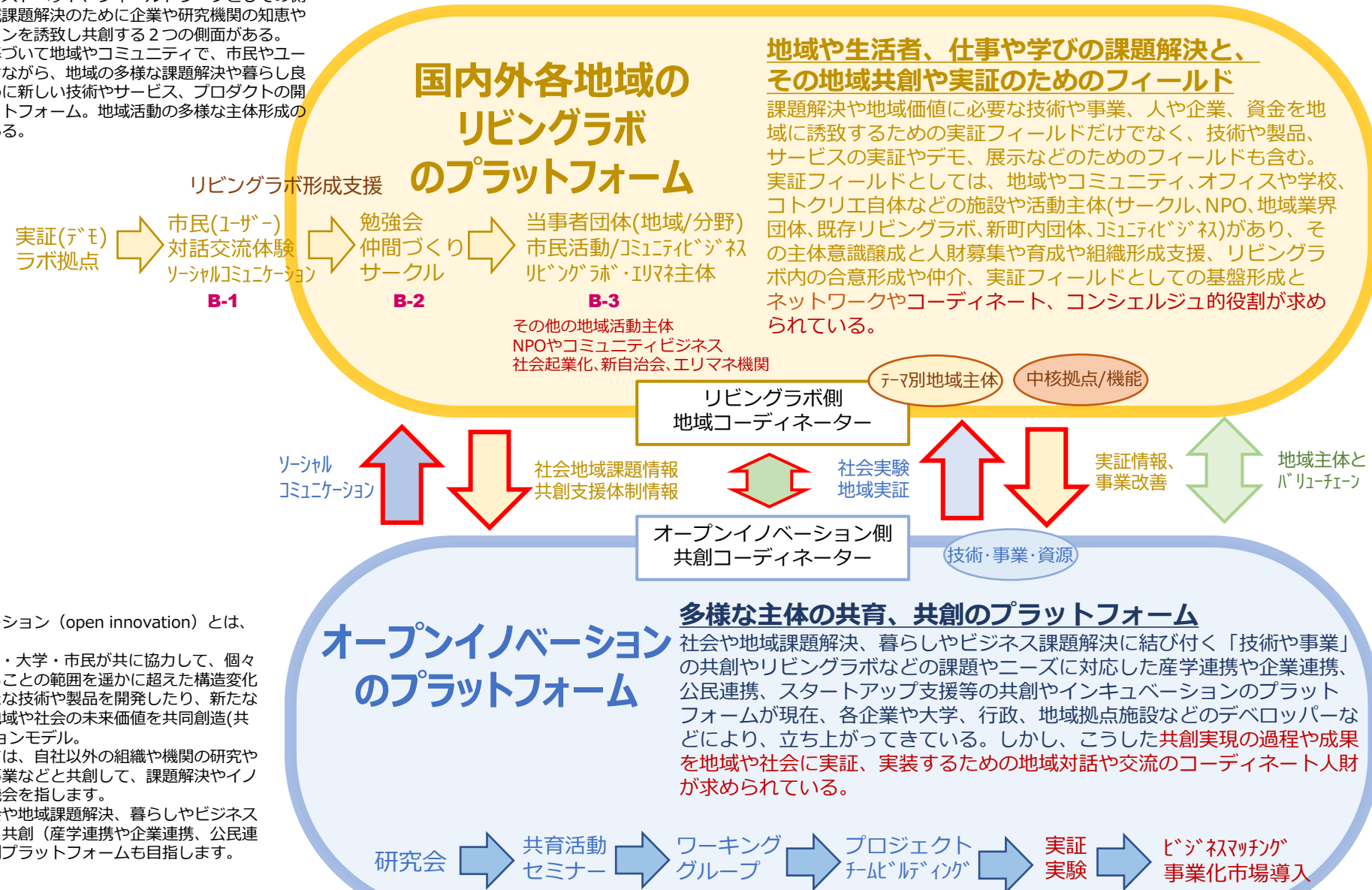
5

※リビングラボ（Living Lab）とは

企業や研究機関のテストベッド、フィールドワークとしての側面と、地域側が地域課題解決のために企業や研究機関の知恵や資金、ソリューションを誘致し共創する2つの側面がある。ここではテーマに基づいて地域やコミュニティで、市民やユーザーが主体性を持ちながら、地域の多様な課題解決や暮らし良い環境の実現のために新しい技術やサービス、プロダクトの開発を共創するプラットフォーム。地域活動の多様な主体形成の中間支援の役割もある。

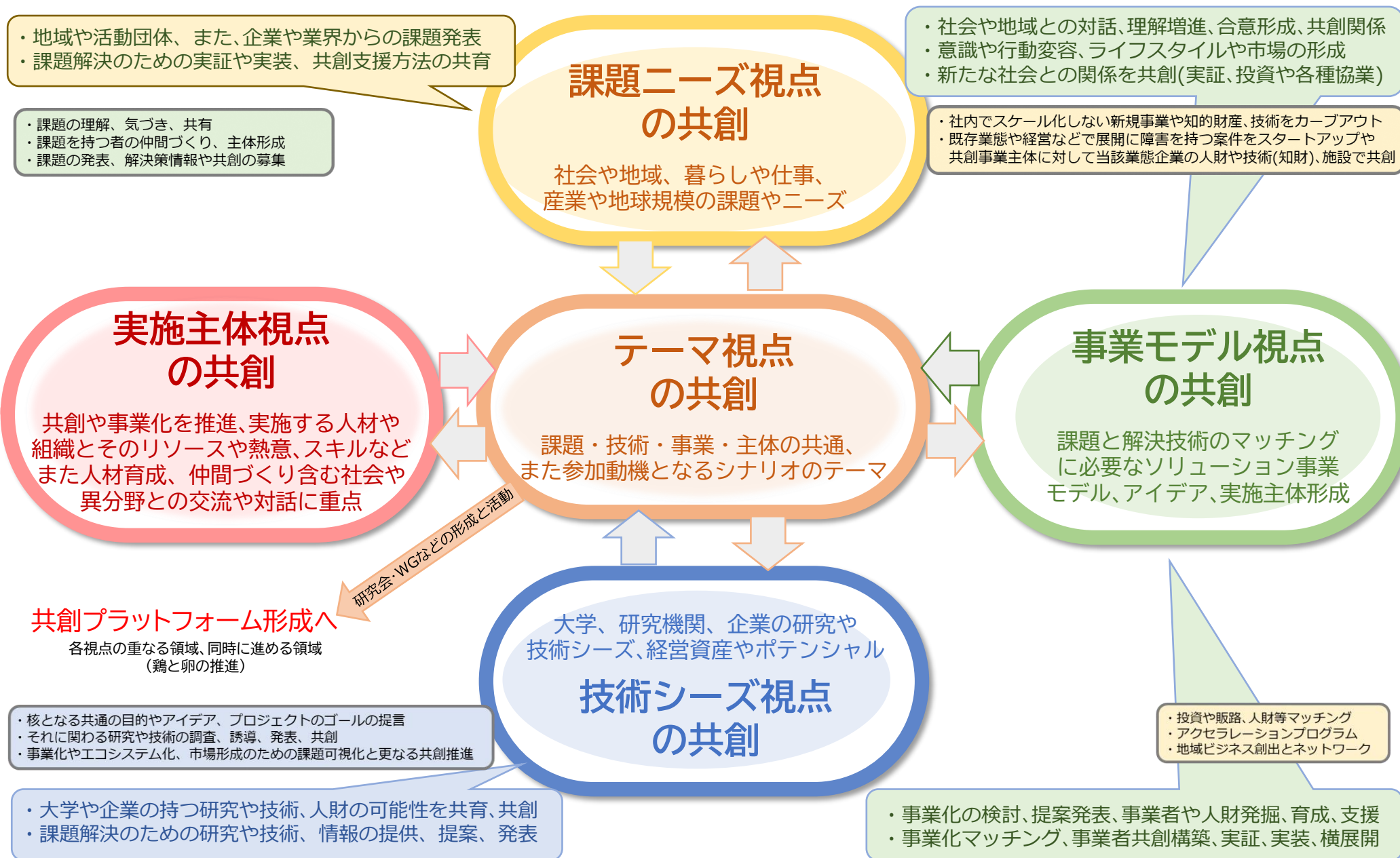
※赤文字、

➡ 求められる機能と人材輩出



共創活動に取り組む起点となる基本的な視点

6



知的対流拠点形成のまちづくり

秋葉原クロスフィールド 秋葉原UDX、先端ナレッジフィールド (NTT都市開発・ダイビル・鹿島建設)



グランフロント大阪 ナレッジキャピタル (三菱地所・オリックス 阪急電鉄・積水ハウス 大林組・NTTUDほか6社)



ひろしま知の拠点 再生プロジェクト1期 (アーバンコーポレイション)



つくばセンタービル 新機能サービス創造 (筑波都市整備) 筑波大学附属病院PPP



浦添市公園まちづくり 琉球庭園都市 (浦添市・UR都市機構)



和光北インター地域 ハルシールパークPPP (和光市)



浪江国際研究学園都市 推進事業 (福島国際研究教育機構) (浪江町)



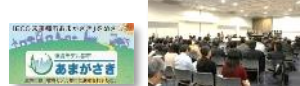
IoTプラットフォーム (福岡商工会議所)



多様な主体の参画検討(オープンイノベーション)によるまちづくり、リビングラボ企画例

E C O未来都市・尼崎エコミュージアムシティ構想

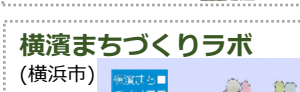
(尼崎市・尼崎商工会議所・
尼崎経営者協会・尼崎信用金庫
協同組合尼崎工業会・
公益財団法人尼崎地域産業活性化機構)



蓮田市農商工連携事業 アグリキャン (蓮田市・ 蓮田市商工会)



藤沢サスティナブル スマートタウン (パナソニック) Fujisawa SST



川口グリーンセンター 活性化基本計画 (川口市)



横濱まちづくりラボ (横浜市)



横浜市山下ふ頭再開発 賑わい創出 (横浜市港湾局)



横浜中央卸売市場 活性化策と山内ふ頭 賑わい創出 (横浜市)



泉大津市ヘルシーパーク アビリティリビングラボ (泉大津市)



クールジャパンフロント のまちづくりりんくうタウン (大阪府・泉佐野市)

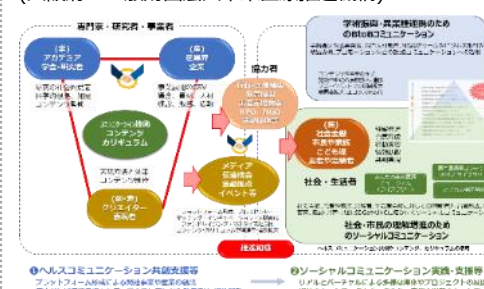


川上・川下ネットワーク構築支援事業 次世代IoT・インターネット・推進ネットワーク構築 流通小売業におけるRT技術の活用研究会 (独立行政法人中小企業基盤整備機構)

フードサービス産業 食の安全安心人材育成事業 (経済産業省) 食の安全安心エキスパート人材育成 Institute of Creative Industries & Culture



未来医療国際拠点 健康医療ソーシャルコミュニケーション (大阪府・一般財団法人未来医療推進機構)



未来医療の共創をめざし共創プラットフォーム
を構築、実用化・産業化のエコシステムを形成

北大阪健康医療都市「健都」 健康医療のまちづくり 産官学民共創プラットフォーム (吹田市・摂津市・ほか)



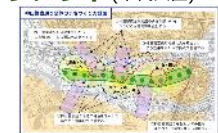
食の知の拠点事業 (大阪府立大・大阪府立大・ 同志社大・関西大・ 辻調理師専門学校)

関西エレクトロニクスイノベーション (関西電力) KANSAI ELCTRONICS CLUB KELC CLUB

ロボットラボラトリー・RoBO ヘルスケア・フロンティア (公益財団法人 大阪市都市型 産業振興センター)



神戸警察通り賑わい 創出エリアマネ ジメント(千代田区)



パークマネジメント と次世代公園研究会 パークマネジメントと 次世代公園研究会



みんなの エネルギー会議 (町田市商工会議所・ 八王子商工会議所・ 相模原商工会議所)



食の知の拠点構想

(経済産業省
関西経済連合会・
開催経済同友会・
大阪商工会議所・
大阪市立大学・
大阪府立大学・
同志社大学・関西大学
辻調理師専門学校他)

癒し快適エビデンス 評価・支援センター (OHS協議会)



万博での共創推進



(公社)2025年日本国際博覧会協会
(公社)2025年日本国際博覧会大阪パビリオン

I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

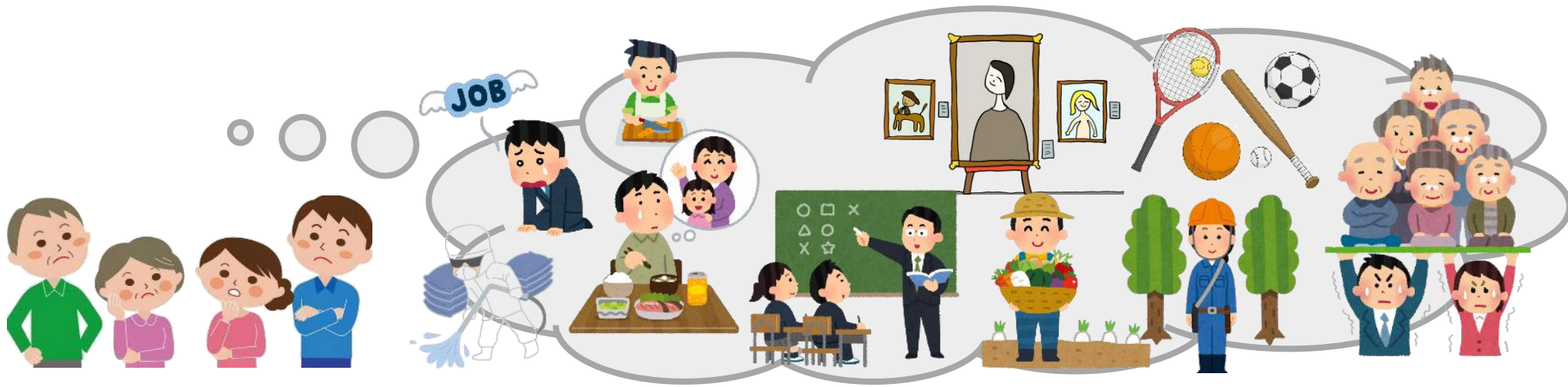
事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

**町内外の地域経営資源を活用し、
地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!**

地域の困りごと、地域の課題（≡地域二一ズ）は地域の方が一番、理解しています。



しかし、地域を持続的に経営していくための経営資源(資産)については、地域の方は気付いていないということが多くあります。

地域課題解決は、
すなわち地域のニーズであり、市場とも言えます。

その市場や地域に参入する者が居なければ、
それは潜在的な市場です。

自らも困り、地域の課題である市場ならば、サービスを受ける
お客様から、地域の事業主体として事業化し、

地域経営やコミュニティビジネスに参画していくことが
望ましいのではないのでしょうか。



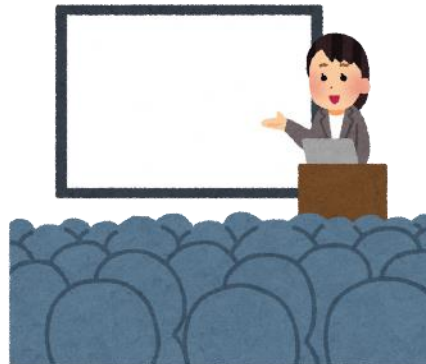
通信講座 E-ラーニング



学習マーケット(対象者)への
サービス(ソリューション)対応



カルチャーセンター ／各種教室



社交学習マーケット(対象者)への
サービス(ソリューション)対応



リビングラボに
ベネフィットを要求

趣味のサークル 仲間作り



コミュニティからの
サービス(ソリューション)対応



リビングラボに
自らの改善成果を要求

これまでは、地域課題解決や地域のサービスは、行政のサービスであり、地域の住民や事業者は、受益者でした。

しかし、行政サービスには限界があり、持続的な地域経営やエリアマネジメントには結びつきません。



どぶ掃除



エリアマネジメント事業の一つ

水たまりの修復



公設公営 公共発注 行政支援

行政の新設拡大、関連団体設立移譲、第三セクター



徴税と行政施設やサービスに再配分

不足額は、自治体は国の交付金
地方債券、財政投融资(財投機関債)
金融機関借入



公共施設の企画、設計、建設
・・・業務委託



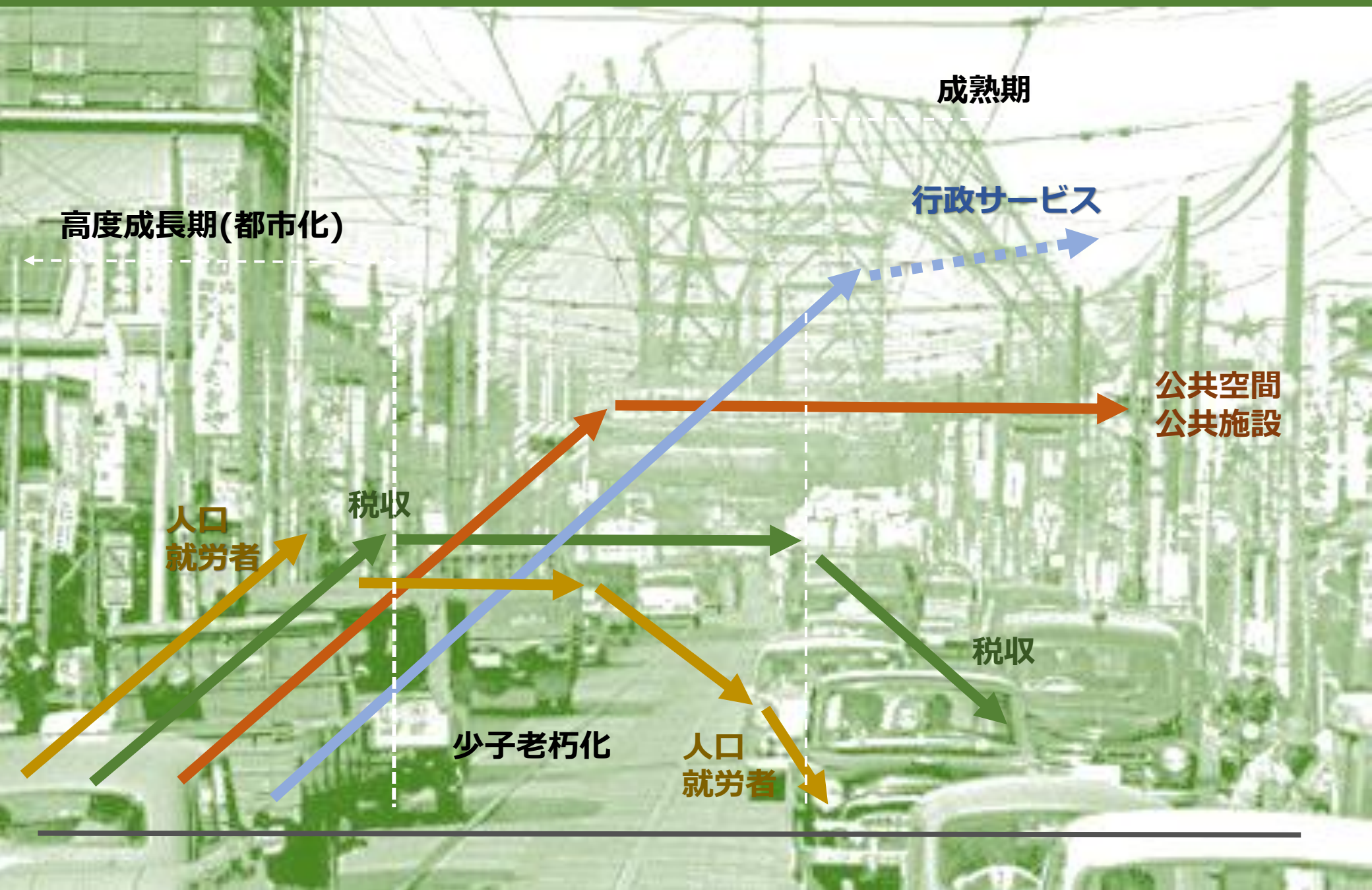
公共施設・公共資産
(公共ストック)

動物園



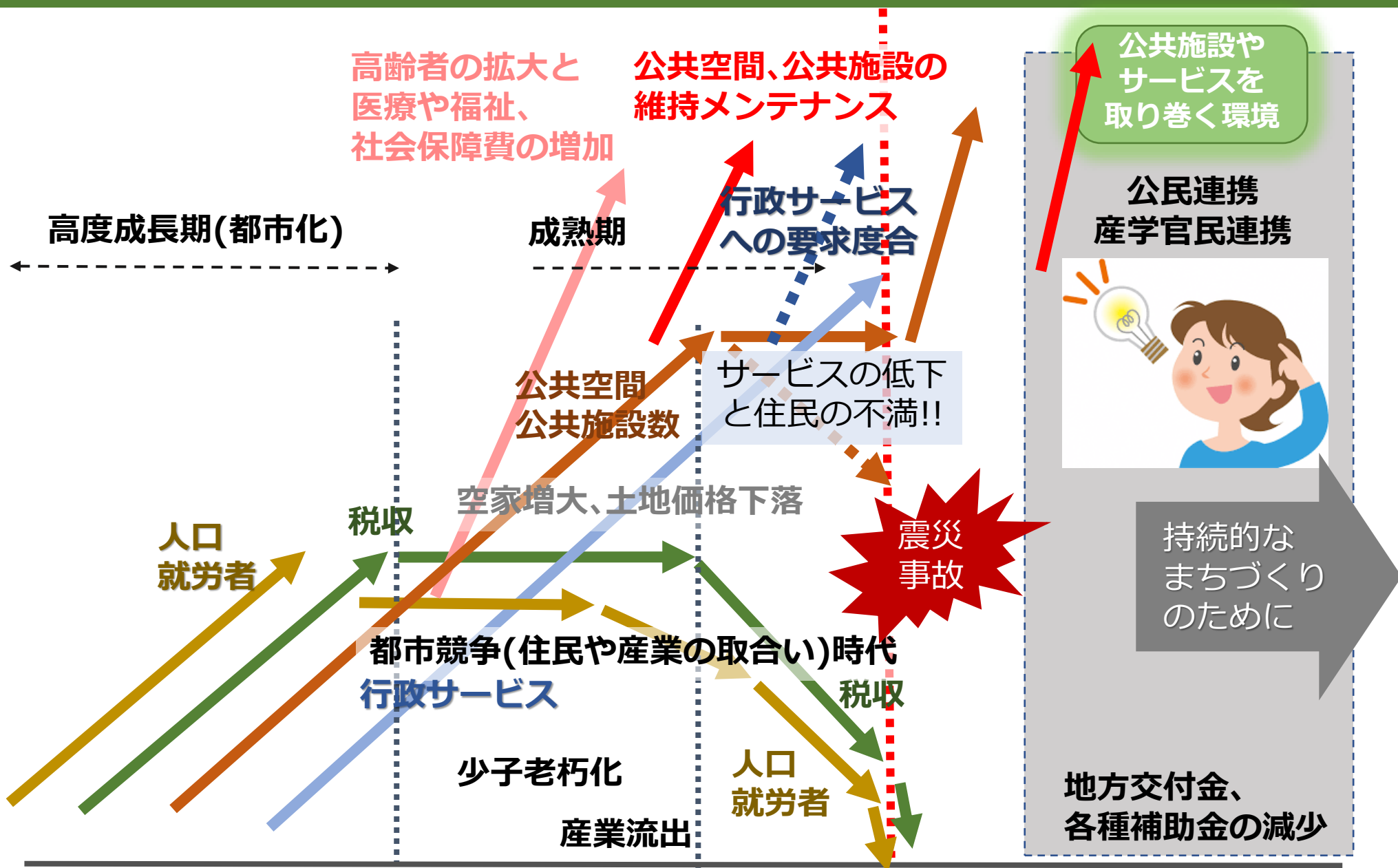
行政業務の一部委託、アウトソーシング
(ハード)施設の管理委託(管理資産は公)
(ソフト)事業の企画運営業務
(役務、物品の提供)

民間事業者へは補助金、助成金、
低利融資

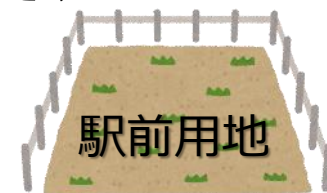


社会環境の変化

- ・ 成長拡大の時代から、成熟縮小の時代へ
 - ・ 少子高齢化、人口減少、産業流出、空家、空き地増大への流れ
 - ・ 税収、地方交付金、各種補助金の減少による財政難
 - ・ 公的不動産(公園等)、インフラの整備や維持管理が困難に
 - ・ 並行して、医療や福祉、社会保障などの行政サービス維持も困難に
 - ・ 地方自治体間の都市競争(住民や産業の取合い)時代に
 - ・ コンパクトシティの推進と市民協働、公民連携、共創の時代に
 - ・ 富の分配から負の分担時代に
 - ・ シティブランディングとシビックプライドの醸成による幸福なまちに
-
- The diagram features several colored arrows representing trends over time:
- Blue arrow (top):** Labeled "行政サービス" (Administrative Services), pointing right.
 - Orange arrow (middle):** Labeled "公共空間 公共施設" (Public Space, Public Facilities), pointing right.
 - Green arrow (bottom):** Labeled "税収" (Tax Revenue), pointing right.
 - Yellow arrow (left):** Labeled "人口 就労者" (Population, Workers), pointing right.
 - Yellow arrow (right):** Labeled "人口 就労者", pointing left.



持続的に経営するためには、継続的に技術を開発し高め、人材を発掘し育成し、事業化する資金や用地を確保して、他地域にも展開できれば理想的です。



これまでに浪江町には、無かった
新たな産業や文化、または
地域ブランドの再構築(Re-ブランディング)
になるかもしれません。



そのために地域では、
何を行えばよいのでしょうか。
何を利用すればよいのでしょうか。

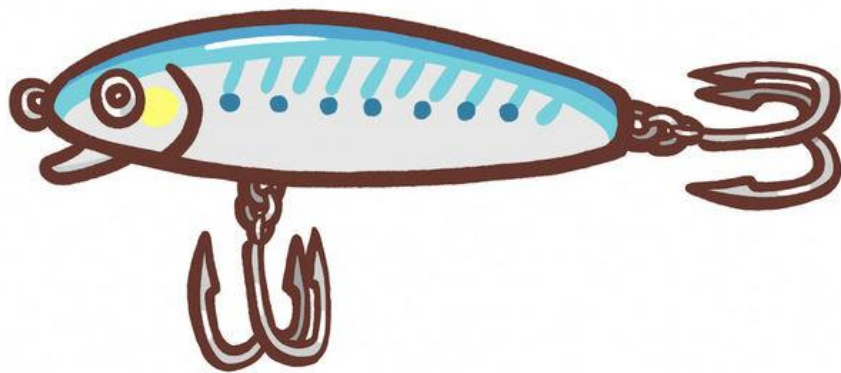


例えば、地域課題と地域経営資産を可視化します。
そして事業化のためのボトルネックや

不足する技術や人、事業者や資金などのリソースを、
どのように地域に誘致するのか、パートナーにするのか
また、育成や開発するのかを考えます。

不足するリソースを釣り上げる

どのような餌をフックにするか

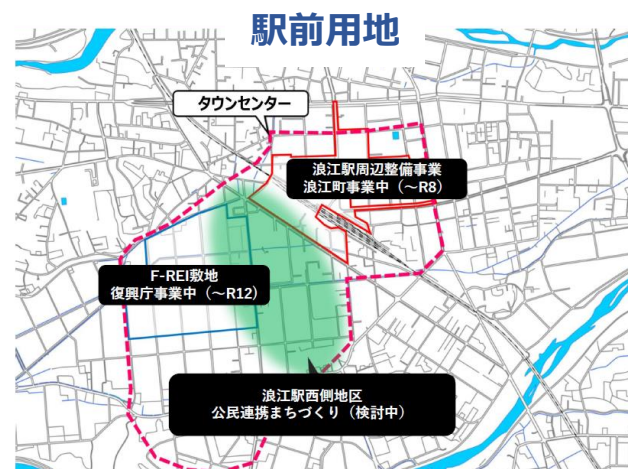


その不足するリソースを誘致、また育成、開発するためにも、浪江町の経営資産(資源)を賢く活用します。

浪江町の経営資産(資源)は、浪江駅西側の用地や計画かもしれません。

移住者も含む住民や事業者の協力、協働、実証の仕組みかも知れません。

また、新たにできるF-REIの機能や人材、地域の用地(PRE含む)、公的な補助金の活用かも知れません。



地域の協力体制
(リビングラボ等)

F-REI
福島国際研究教育機構

産学連携、地域実証



補助金など支援制度



F-REIをフックに進出する産学などのR&Dのプロジェクトに対する 共創（ナレッジマネジメントやオープンイノベーション）から 地域実証、地域共創（リビングラボ）を支援するエリアマネジメント

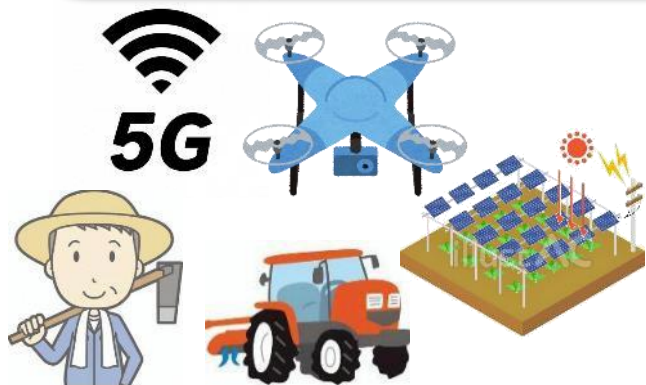
実証フィールド機能「リビングラボ機能」として、フィールド活用関係者に対する地元地域側の施設や支援事業、サービスの事業創出、人材育成と各サービスのコーディネート機能の組合せによる地域経営

コア業務 ナレッジマネジメント等

- ①研究開発施設・設備 ※研究用設備と生産量産設備との違い
- ②研究開発支援サービス(課題提供)
- ③共創支援サービス(オープンイノベーション)
- ④ソーシャルコミュニケーション支援
- ⑤マッチング・コーディネート
- ⑥実証支援サービス(リビングラボ)

ノンコア業務 アウトソーシング等

- ①研究開発のノンコア業務アウトソース
- ②生活支援施設・住宅・利便施設(長短期)
- ③生活支援サービスのアウトソース
- ④研究者家族サービス支援
- ⑤地域交流サービス
- ⑥視察見学研修者アテンド(通訳)



研究・教育支援リソースの発掘



実証フィールド活用の研究者
・事業開発者・ベンチャー等

炊事洗濯掃除



地域人材・事業者・産業
活用ビジネスの創出と仲介

練習施設・宿泊施設 +
対戦相手のコーディネート等



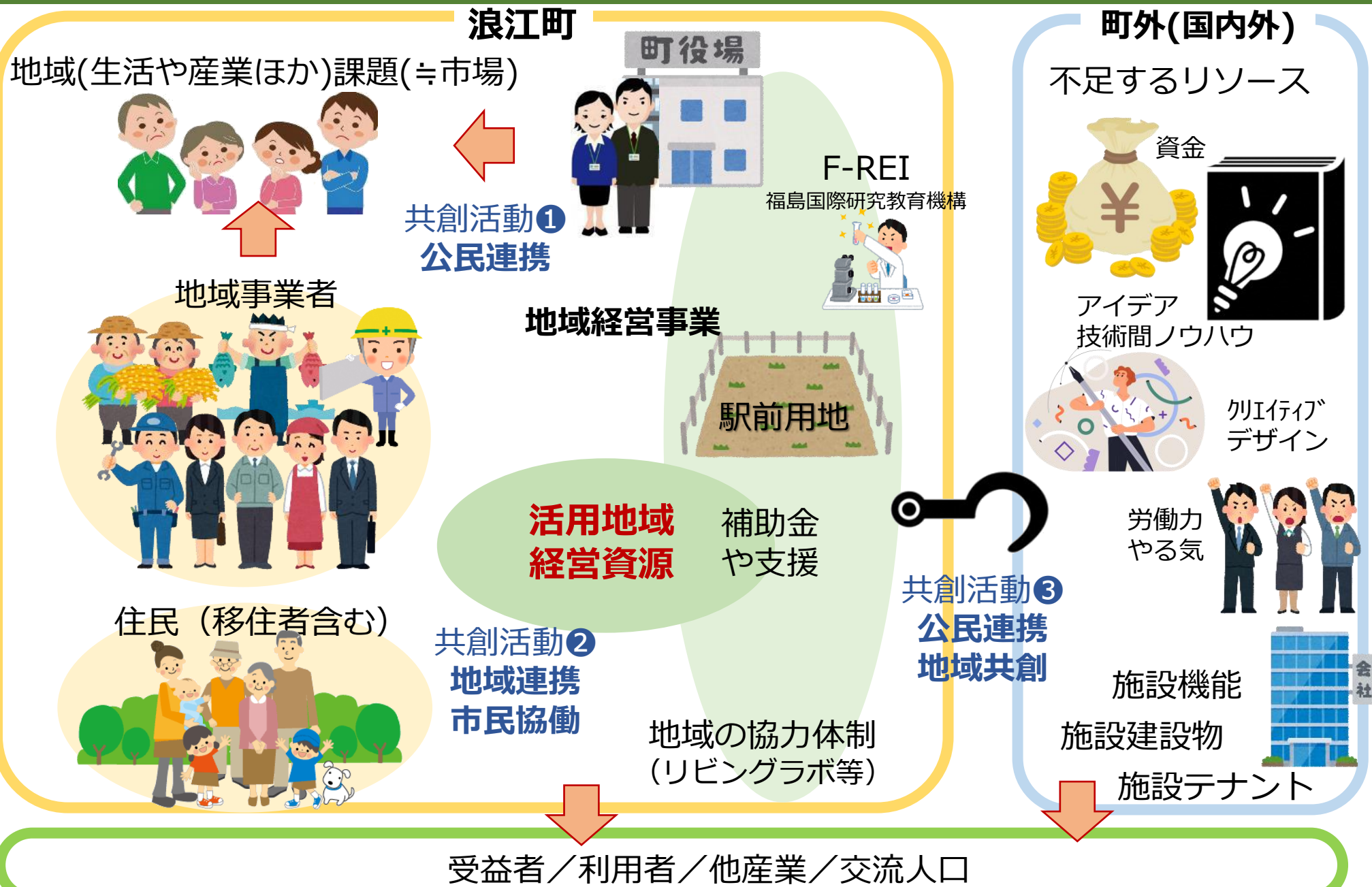
このように行政サービスの事業創出や
コミュニティビジネス創出のための公民連携から、

地域に不足する多様なリソースを誘導し連携する
オープンイノベーションや
地域連携のリビングラボなどの
共創手法を身に着けて、
地域経営の主体側の
関係者になっていただきたいと思います。

アイデアを出す人、それを形にする人
事業とする人、そのパートナーになる人

共創の課題、技術、事業モデル、実施主体、
その方向を一体化するテーマを集めます。





I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

共創を実現するために

共創とは

共創（co-creation）とは、企業等があらゆる利害関係者（ステークホルダー）と対話や協働しながら事業の企画、運営、評価を行い、新たな価値を創造することです。

*ステークホルダーには行政、企業、NPO等市民活動団体、消費者などがあります。

社会や市民（消費者）のニーズが多様化し、変化する中で、1つの企業、行政、NPO等市民活動団体等が社会、消費者のニーズに合致したサービスや商品を中心に中期的に継続して提供することが難しくなっています。共創は、常に多様化、変化する社会や市民の価値観等を把握し、多角的な視点で事業の企画、運営、評価を行う一つの手法であると考えられています。

「共創」と「協業」について

「共創」と似た言葉に「協業」などもあります。「協業」はあらかじめ分担を決め、企業同士が利益追求のために協力することを意味し、協業相手を見つけることも大切ですが、近年では様々なステークホルダーが共に「共通善」を探し、作っていくことがより求められる時代だと言われています。「モノを作って提供するだけ」のビジネスではなく、より持続的に、よりニーズに合った価値を社会へ提供することが可能となります。

共創パートナーとのWinWinな関係が重要

産学連携や公民連携、市民連携に多いパターン



共創を求めるなら、

社会を含む共創パートナーとのWinWinな関係構築が前提でないと実現しない。

3者以上の共創、分野の違う共創のWinWinは、更に難しくなる。

また、社会が祝福、つまり社会が共感できる共創でないことも、持続を難しくする。

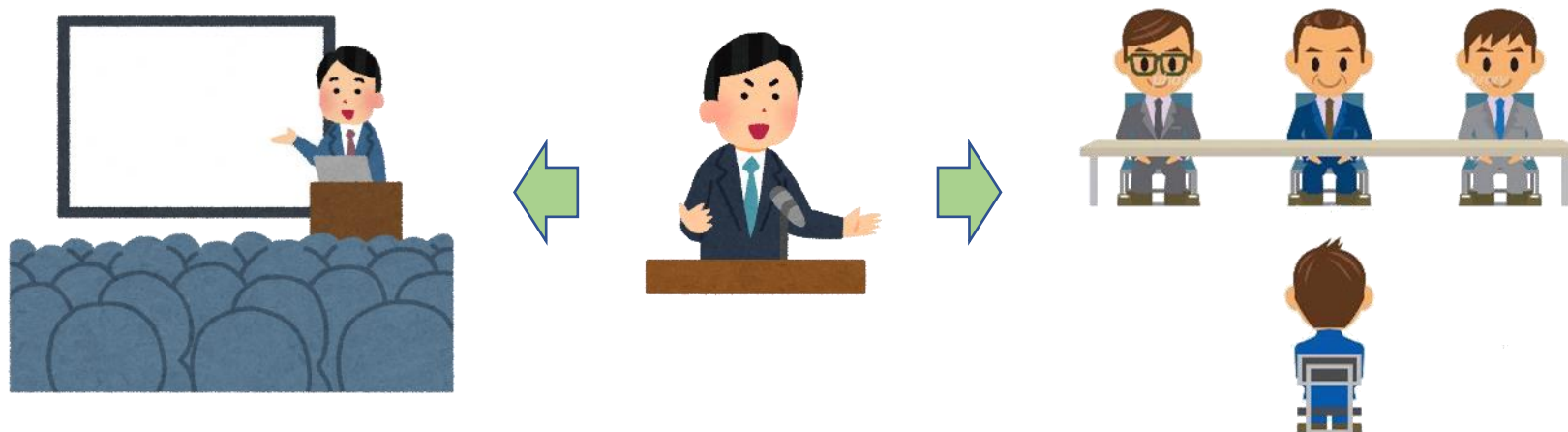
企業でいえば、独占的成長から、

CSR (Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任)、特に

CSV (Creating Shared Value 経済的価値と社会的価値を同時実現する共通価値、共有価値) を目指す方向に。ESG投資も同様に、収益も大前提。

言葉だけの「共創」では、
共創が実現しない、共感と合意形成、プレゼンターとしての意識と意欲
フラットな関係、ウインウインナ関係、互いのベネフィットへの配慮
社会の評価(行動への認知共和)などが重要となる

例) 産学連携を求めるアカデミア側の研究者の講演とスタートアップのVCへのピッチの比較



共通言語が無い

- ・ 異分野の専門用語が解らない。⇒ 自身の専門用語も説明できない。
- ・ 異分野の慣習や価値観が解らない。⇒ 自身の慣習や価値観で見ている。
- ・ パートナーの持つ価値や課題、歴史や習慣、様々な個別事情が解らない。
- ・ 「知識」が上位概念となり、
共創のために必要な「知恵」や「共感」が使われていない。



社会課題解決（地域課題含む）をテーマとすることは、共創のビジョンが共有しやすい

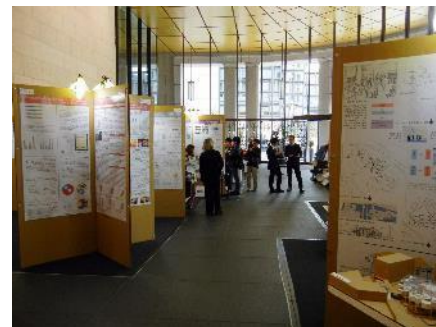
共通言語のある人が集まる

これまでの学会、業界団体の役割と共創のためのものとは違う



「away」感、場違い感、心理的安全性が確保されていない

「Go away!」は「あっちへ行け!」



I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

事例

沖縄県浦添市

公園まちづくり

浦添市の顔づくり

琉球庭園都市としてのゾーニング

浦添の心の拠り所となる“浦添の顔づくり”

対象地区：「ウラオソイ文化交流ゾーン」

(琉球王国発祥の地、歴史文化の中心、平和希求の場…)

西海岸一帯

海を活かした文化と活力
ある新たな都市の形成

カーミージー
公園整備

浦添グスク
再生

景観
まちづくり

前田公園

琉球の自然と歴史文化が
感じられる空間
(パークマネジメント)

経塚公園
経塚駅

健康で暮らしやすい地域
づくりのための地元が
主役の交流拠点
(パークマネジメント)

浦添前田駅

交流施設・広場

浦添を象徴する歴史と自然
を生かした賑わい空間、
新たな浦添の玄関口、
交通拠点

景観
まちづくり

JICA沖縄
国際センター

ただこ
浦西駅
大規模開発
地区

資料 1

モノレール沿線のまちづくり

浦添市の顔となる沿線の公園整備計画と公園を活用したまちづくり



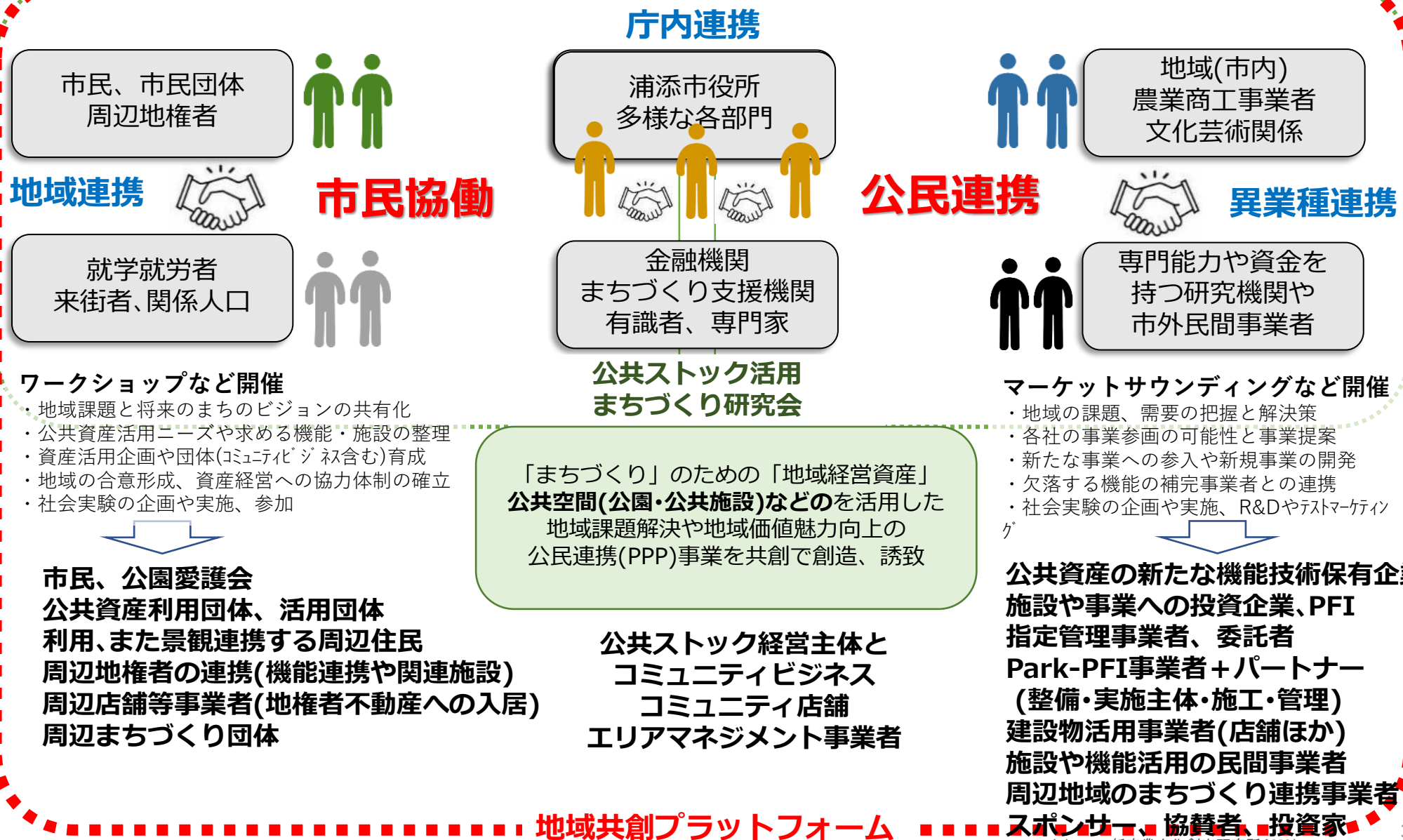
「市民協働」「公民連携」PPPによる公園まちづくり研究会



- ・ 市内の連携によるまちづくりのモデル事業として
- ・ 市民の主体性の醸成と公園を核としたまちづくりへの参加による共創環境を創る
- ・ 効果的な公民連携(PPP)の実現のため多様な事業主体の共創によるパークマネジメント
- ・ 地域の課題解決、将来構想を実現する為の共創プラットフォーム形成
(新旧住民のコミュニティ醸成、地域価値を高める景観形成、新たな地域主体の育成ほか)
- ・ 公園を活用して、まちづくりの様々な事業を希望する民間事業者の参画を促し育成
- ・ 地域のランドデザイン構築と検証、選択肢の拡大による実現性、持続性の確認
- ・ 公園とパークマネジメントを核として周辺地域のエリアマネジメントに拡大
- ・ 複数の公園まちづくりの計画や主体をネットワーク下広域的まちづくりコンセプトの設定



「経塚公園」の公園まちづくり研究会



◆サウンディング公募

- ・提案等書類提出
- ・対話型(クローズ)・単独
- ・研究会型(公開)・共創
- オープンイノベーション
- 地域状況・パークマネジメント等公園活用の理解、研究
- 提案賛同者募集、意見交換
- 課題解決案募集、意見交換
- ワーキンググループ組成
- 事業精査、事業性追求
- 公園活用主体として準備
- 賛同者や協力者との連携
- パートナーマッチング

- ◆社会実験(イベント含む)
- 事業計画・マーケティング
- 資金確保、支援策享受
- 地域の合意形成、意識醸成
- 連携する事業や地域検討

- ◆パークマネジメント計画
- ◆管理プロポーザル(公募、決定)
- ◆事業開始、事業性追求
- ◆自立、持続、支援
- ◆浦添産業として横展開へ

庁内連携

浦添市役所
多様な各部門



公園基本
方針決定

検討ワーキング
グループ(複数)

連携促進
プロジェクト化
立場の明確化

- ・公による公園整備・再整備
- ・PPP公募仕様書、契約条件等決定
- ・PPP整備プロポーザル(公募→決定)
- ・民によるP-PFI等公園整備と開業

- ・質問・課題・希望・実現可能性(市場性)
- ・アイデア・技術、事業提案
- ・研究開発・連携・社会実験・イベント

公民連携

- ・情報提供・庁内調整
- ・地域課題・ニーズと調整
- 研究会・利用許可・支援

メンタリング
チームビルディング
コーディネート

- ・公園等地域の課題、需要の把握と解決策
- ・各社の事業参画の可能性と事業提案
- ・新たな事業への参入や新規事業の開発
- ・欠落する機能の補完事業者との連携
- ・社会実験の企画や実施、R&Dやテストマーケティング

地域(市内)
農業商工事業者
文化芸術関係



異業種連携

専門能力や資金を
持つ研究機関や
市外民間事業者

公園の新たな機能技術保有企業
公園施設や事業への投資企業、PFI
公園指定管理事業者、委託者
Park-PFI事業者+パートナー
(整備・実施主体・施工・管理)
建設物活用事業者(店舗ほか)
公園活用の民間事業者
周辺地域のまちづくり連携事業者
スポンサー、協賛者

地域共創プラットフォーム

◆サウンディング公募

- ・提案等書類提出
- ・対話型(クローズ)・単独
- ・研究会型(公開)・共創
- オープンイノベーション
- 地域状況・パークマネジメント等公園活用の理解、研究
- 提案賛同者募集、意見交換
- 課題解決案募集、意見交換
- ワーキンググループ組成
- 事業精査、事業性追求
- 公園活用主体として準備
- 賛同者や協力者との連携
- パートナーマッチング

公園の活用ニーズや求める機能・施設の整理

- ## ◆社会実験(イベント含む)
- 事業計画・マーケティング
 - 資金確保、支援策享受
 - 地域の合意形成、意識醸成
 - 連携する事業や地域検討

公園活用団体

- ◆パークマネジメント計画
- ◆管理プロポーザル(公募、決定)
- ◆事業開始、事業性追求
- ◆自立、持続、支援
- ◆浦添産業として横展開へ

庁内連携

浦添市役所
多様な各部門

- ・情報提供・庁内調整
- ・地域課題・ニーズと調整
- 研究会・利用許可・支援

公園基本
方針決定
検討ワーキング
グループ(複数)

連携促進
プロジェクト化
立場の明確化

- ・公による公園整備・再整備
- ・PPP公募仕様書、契約条件等決定
- ・PPP整備プロポーザル(公募→決定)
- ・民によるP-PFI等公園整備と開業

指定管理事業者
Park-PFI事業者
+パートナー

- ・質問・課題・希望・実現可能性(市場性)
- ・アイデア・技術、事業提案
- ・研究開発・連携・社会実験・イベント

公民連携



地域(市内)
農業商工事業者
文化芸術関係



異業種連携

専門能力や資金を
持つ研究機関や
市外民間事業者

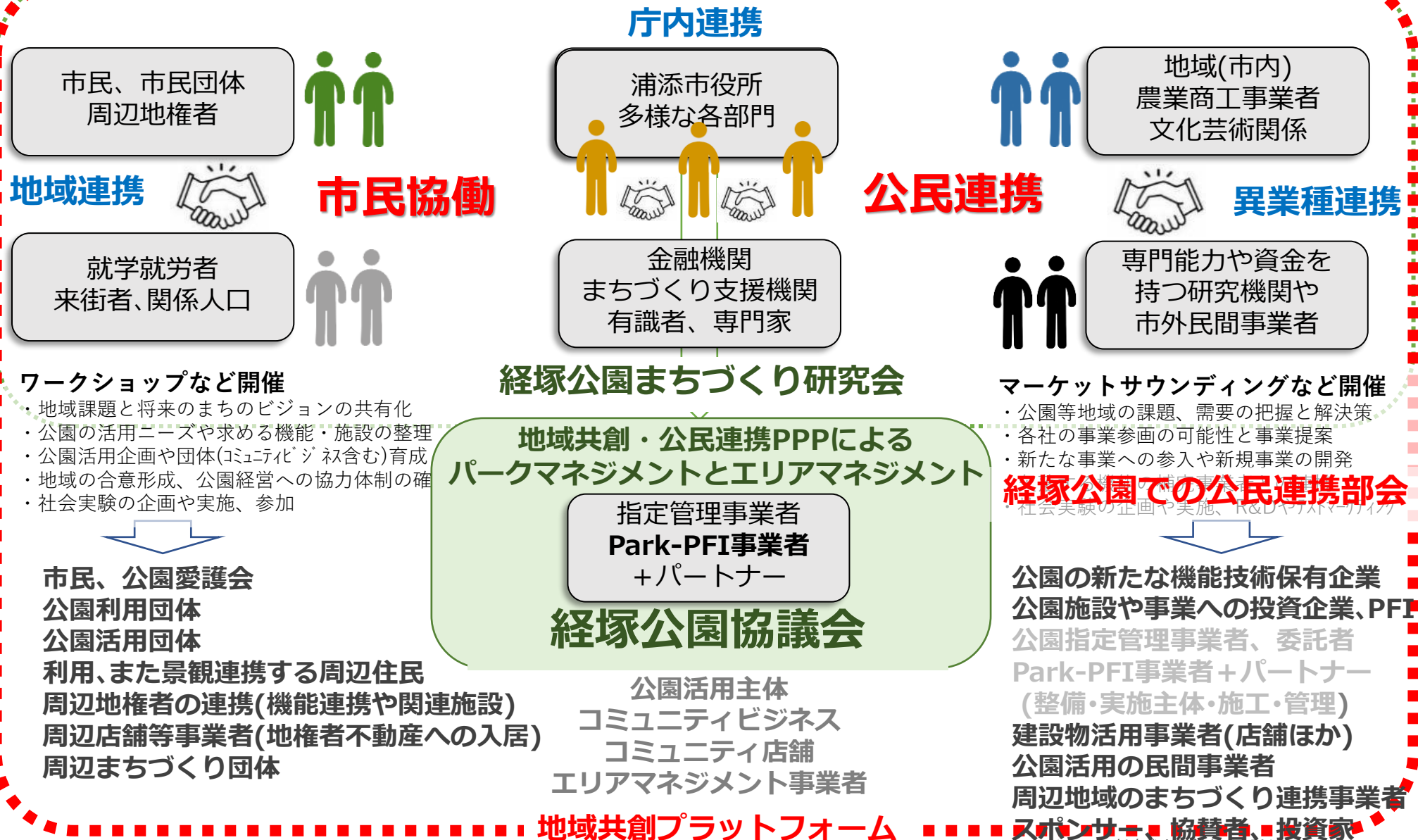


メンタリング
チームビルディング
コーディネート

- ・公園等地域の課題、需要の把握と解決策
- ・各社の事業参画の可能性と事業提案
- ・新たな事業への参入や新規事業の開発

経塚公園での公民連携部会 ワーキング1・・2、3

公園の新たな機能技術保有企業
公園施設や事業への投資企業、PFI
公園指定管理事業者、委託者
Park-PFI事業者+パートナー
(整備・実施主体・施工・管理)
建設物活用事業者(店舗ほか)
公園活用の民間事業者
周辺地域のまちづくり連携事業者
スポンサー、協賛者



研究会(公民連携部会)とテーマを絞ったワーキング活動

地域に対するメリット

現実化のための事業者情報の把握
地域課題やニーズの情報発信
異分野連携、地域連携による
公園の多様なサービス機能が充実
質の向上と持続的な地域活動
関連の産業の振興や企業(投資)誘致

事業者に対するメリット

異業種・産学連携、地域事業者連携による
計画や調査、資金や提案の検討推進
欠落機能や知見を補完するパートナー出会い
複数社によるリスクマネジメントの検討
事業者の事業性、効率性の向上
持続的経営、新たなビジネス創出

最適な公募方法の実現と優秀な事業者の選定

地域連携により、持続的なまちづくりを実現

異なる機能や
サービス
を持つPark-PFI
事業者



異なる機能や
サービス
を持つPark-PFI
事業者

異分野の健康サービス連携、または健康サービスと別のサービス連携

Park-PFI
サービス
の実施事業者



建築や造園の
設計施工
管理運営
地域事業者



Park-PFI
サービス
の実施事業者



サービスに伴う
施設備品、
材料仕入先の
地域事業者

Park-PFI
サービス
の実施事業者



公園整備や管理
技術や活用アイデア
イベント等の
地域の実施者



Park-PFI
サービス
の実施事業者

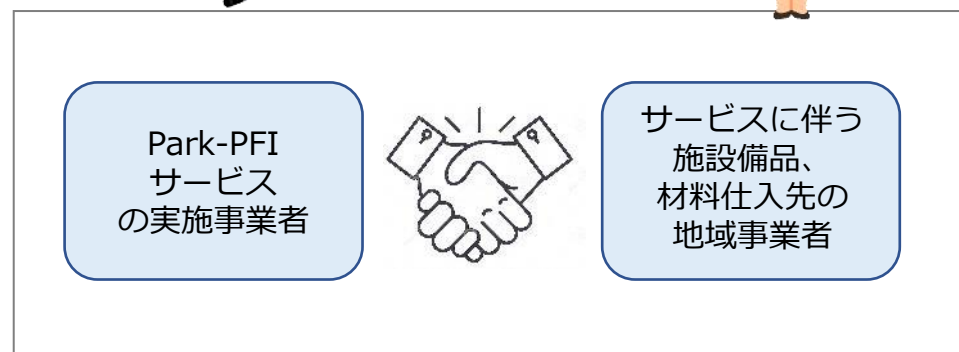
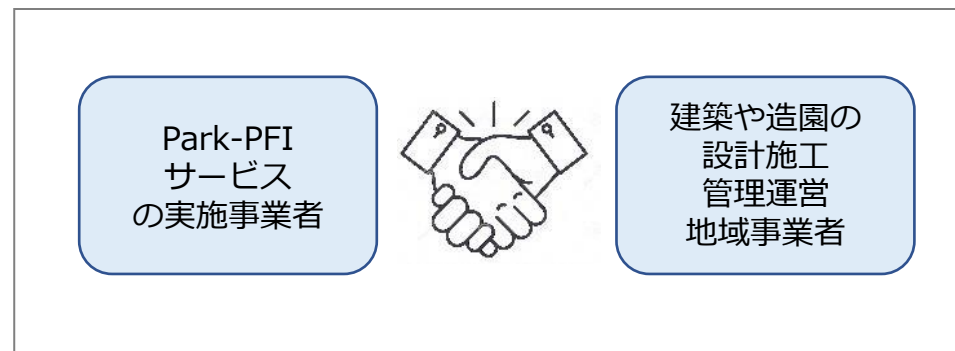


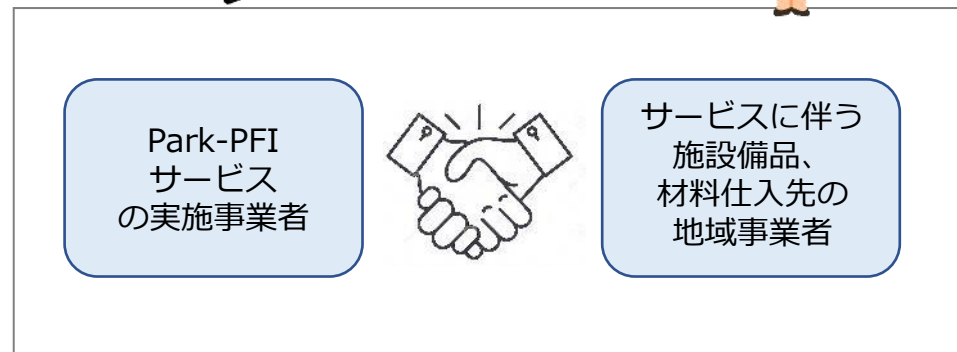
資金の投資、融資
また
不動産開発事業者

Park-PFI
サービス
の実施事業者



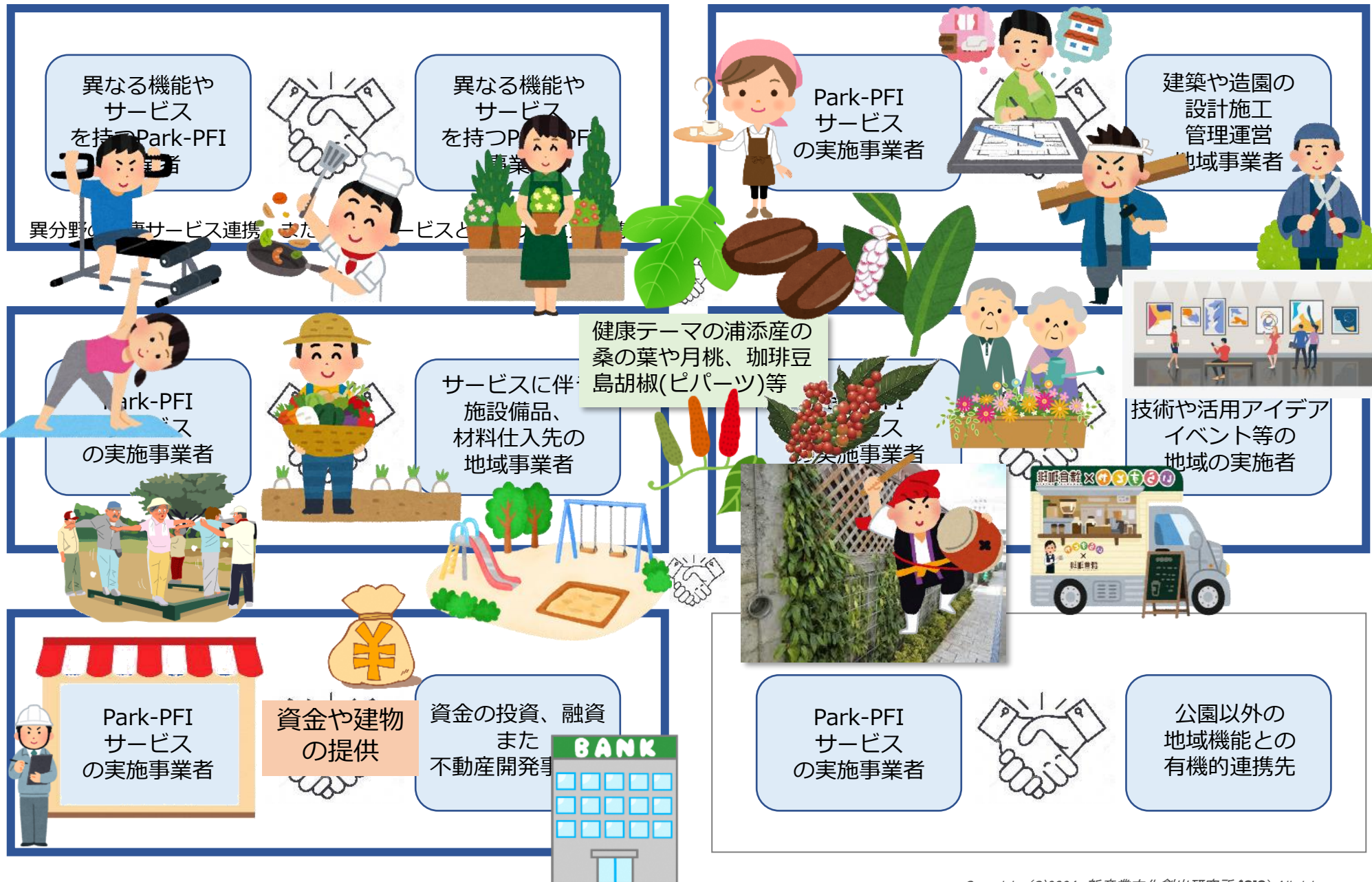
公園以外の
地域機能との
有機的連携先









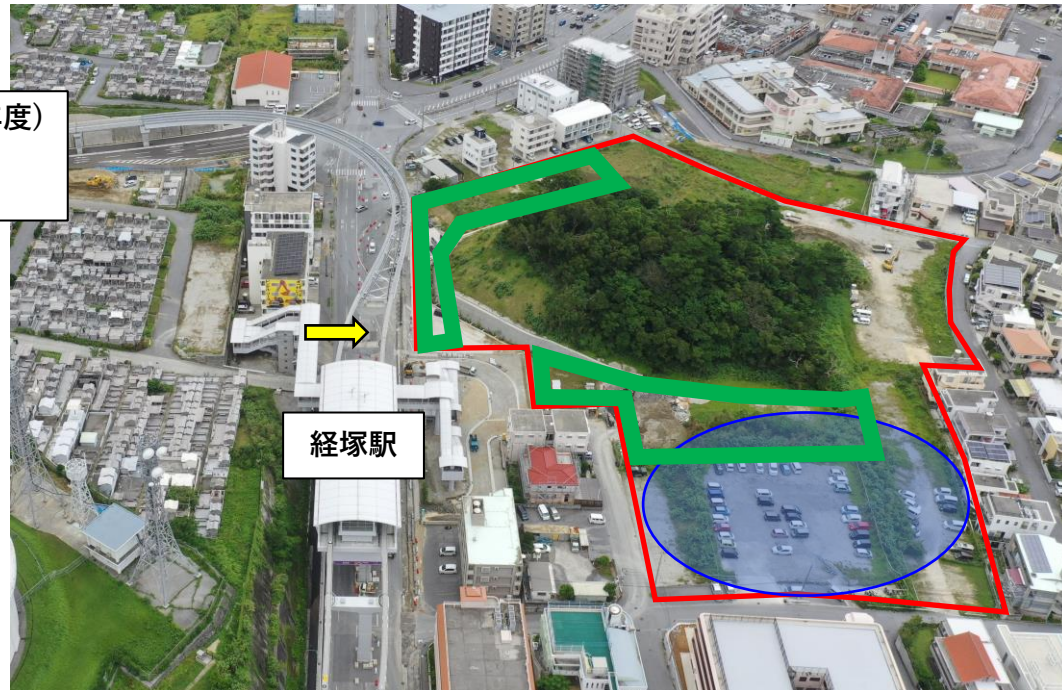








経塚公園 空撮(令和元年度)
※現状と異なります。



凡例

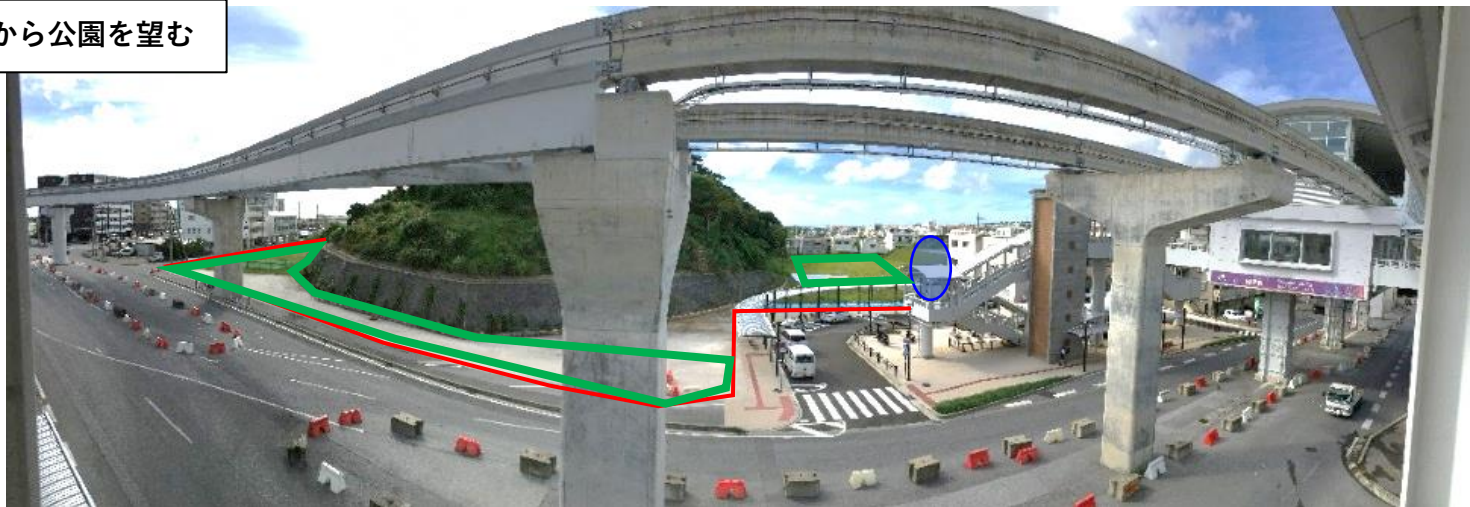
公園区域

Park-PFIエリア

イベント等

利用可能エリア

経塚駅から公園を望む



事業予定者

法人名：医療法人社団 オレンジ

事業コンセプト 「みんなのリビング」

医療法人としての実践を通して、公園を拠点に「つながり」を作り、浦添市の健康に寄与。
まちかど保健室の機能を担う





第3回経塚公園社会実験 経塚駅前ヘルシーパークフェスタ 撮影日：令和5年2月4日

遊びにおいでよ
フリーマーケット
あそび
マルシェ
ママ&キッズ
2024.1.14 日
11:00～15:00
浦添市 経塚公園 社会実験
ゆいレール 経塚駅前広場 駐車場あり

人気のキッチンカー食べ歩き ◆ 体験ブースで癒され

スパイスカレー Hally's&Jack
タコライスと玄米弁当 organize
ベビーカステラ専門店 MARURU
韓国料理とコーヒー smoco
米粉シフォンケーキとCAFE DonDon
自家製ハーブパン ベンチタイム

骨盤診断とフットトレーニング
ミュージックセラピー&アロマ
ネイルハンドケア 手作りアロマ
子育て相談
ビーズ販売 スパイスワークシ
ハンドメイド作品販売
ペットボトルイルミネーション作り

フリーマーケット 出店募集中 出店料500円
WEB申込みQRコード→

主催:スマイルMAMA
協力:浦添市美らまち推進課
asobimarche2024@gmail.com

Instagram
フォローで
もっと詳しく
知ると楽しい



I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

事 例

大阪府泉大津市

アビリティ実証都市の公民連携まちづくり

泉大津市の目指す都市経営戦略「アビリティ実証都市」

アビリティ (ability)

能力、技量、才能、理解力、適正
知能、身体能力、スキル

**身体機能、及び認知機能
の回復、維持、向上**



実証都市

調査研究や実験、治験、体験などを通じて、信頼性や効果を第三者が
実証する為、まち全体をテストベッド、
またプロモーションの場として、市民
や地域事業者の協力、共創により実証

**リビングラボ機能
の確立と運営**

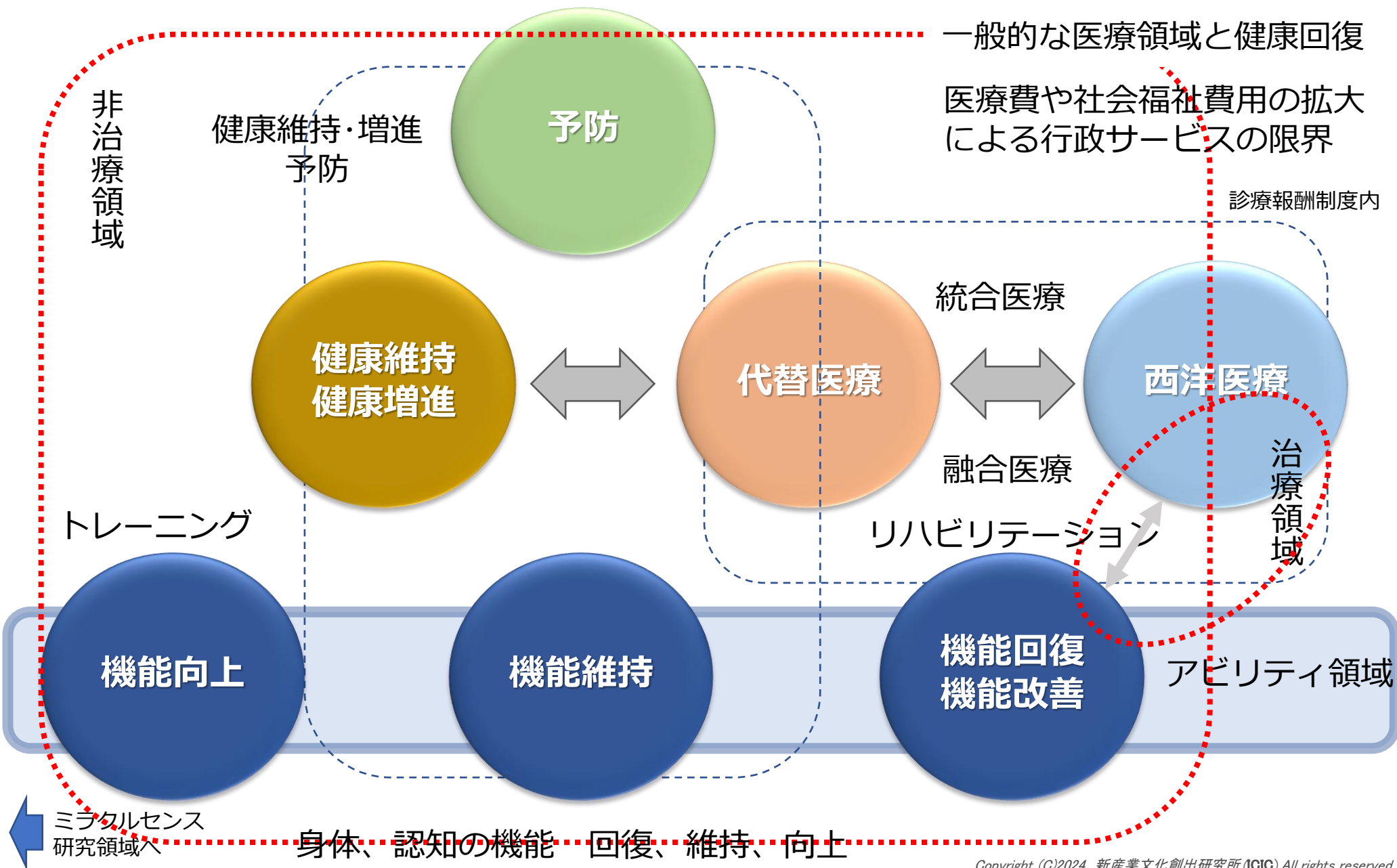
ヘルス関連クラスター拠点整備

公共用地の活用と公園整備

公民連携、市民共創で実現

ヘルシーパーク機能と
パークマネジメント

アビリティ関連機能の
集積化に関わる施設



食育

イルカ療法

レイキヒー
リング

園芸療法

アニマル
セラピー

バイタルセ
ラピー

アーユル
ヴェーダ

アート
セラピー

音楽療法

マッサージ

タラソ
セラピー

ホメ
オパシー

運動

リフレクソ
ロジー

アロマ
セラピー

ヨガ

瞑想

鍼灸

漢方薬

気功

催眠療法

右脳開発法

健康、アビリティ機能やその他、計画地の活用の民間アイデアの募集⁶⁰

民間事業者として活用の幅広いアイデアを募集

- ・健康、アビリティ事業実現のためのアイデア
- ・健康、アビリティ事業用施設の建設、経営のアイデア
- ・その他公民連携施設を建設、経営する上での多様なアイデア
- ・公共用地活用を購入、定期借地、PFI等手法のアイデア
- ・地域課題解決の為のアイデア、その他
- ・事業参画のための方法、他業種との連携などアイデアや要望

都市公園
健康公園

公民連携
健康施設

駐車場

一方通行道路を
双方向道路に幅拡大し
29号線へのアクセス向上

都市計画公園
(春日公園
1.6ha)

三宝伸銅跡地	24,743m ²
市民会館	12,931m ²
消防本部	1,726m ²
合 計	39,400m ²

- ・アイデアは自社が出来る事だけでも可
- ・アイデアは今はないが、
公民連携(PPP)の参画意欲と実績はある
- ・本計画用地以外の連携提案も可

①公園(ヘルシーパーク)整備、運営関連

- ・パークPFI事業者／パークマネジメント事業者(指定管理者等)／設置管理許可事業者
- ・ヘルシーパークに関わる遊具等設備・技術保有者／公園整備事業者
- ・公園を活用し事業を実施するもの等

②開発事業者(公園隣接用地の事業実施主体となるもの)

- ・施設開発デベロッパー(用地取得事業者、定期借地利用者等含む)／PFI事業者
- ・施設PM(プロパティマネジメント)事業者、FM(ファシリティマネジメント)事業者
- ・開発資金投資・金融機関／エリアマネジメント事業者等

都市公園
健康公園

公民連携
健康施設

民間の技術と資金の活用
PPP・PFI

(春日公園)

③開発施設への入居者(テナント)

- ・健康、アビリティ関連入居テナント／研究開発、教育、研修／事業支援機関
- ・市民向けサービス、商品販売等店舗／BtoB向けサービス、商品販売等店舗／
- ・オフィス、その他利便施設等

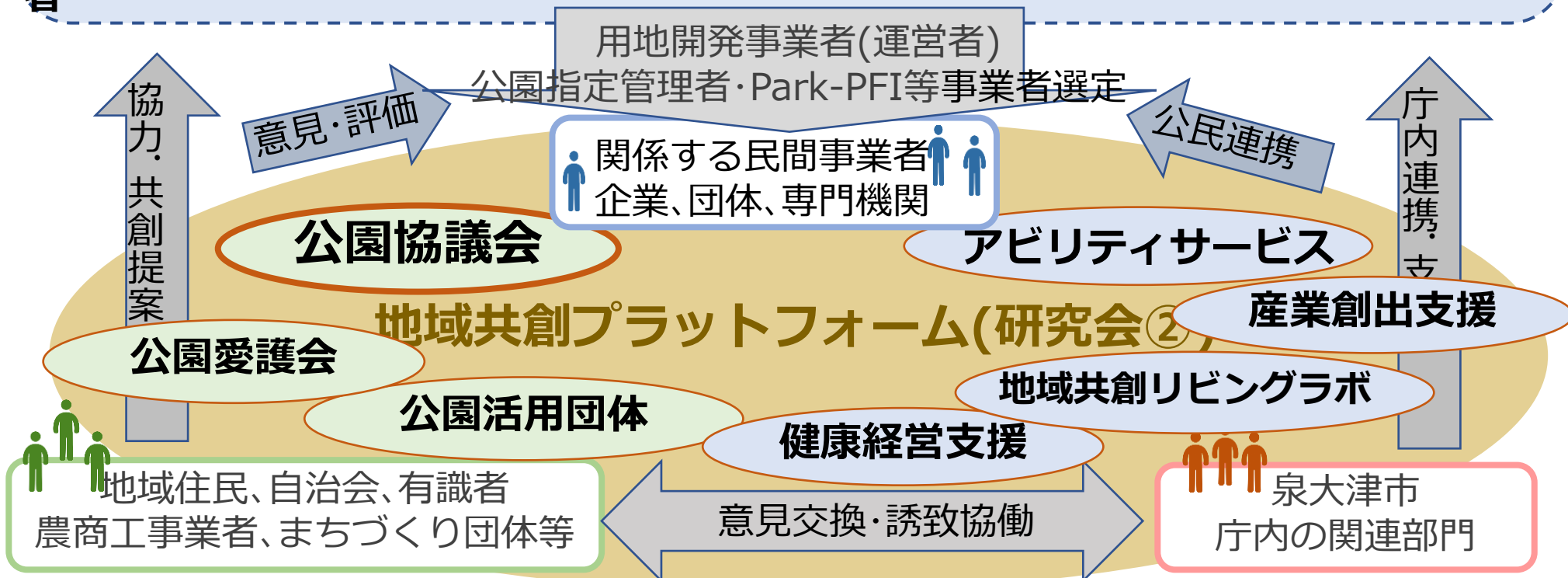
様々な業種の民間事業者



説明会とマーケットサウンディングを実施

- ①公園(ヘルシーパーク)整備、運営関連
- ②開発事業者(公園隣接用地の事業実施主体となるもの)
- ③開発施設への入居者(アビリティに関わるテナント)

ヘルシーパークとアビリティ機能等の実現に向けた研究会①



想定コンセプトの設定(いわゆるたたき台として)

地域共創、公民連携で実現するヘルシーパークと
アビリティ実証都市支援機能を核としたまちづくり

検討

民間企業や大学、
専門家、専門事業者

基本計画の確立と民間事業者連携に向けて

対話型
サウンディング

研究会①
(民間事業者)

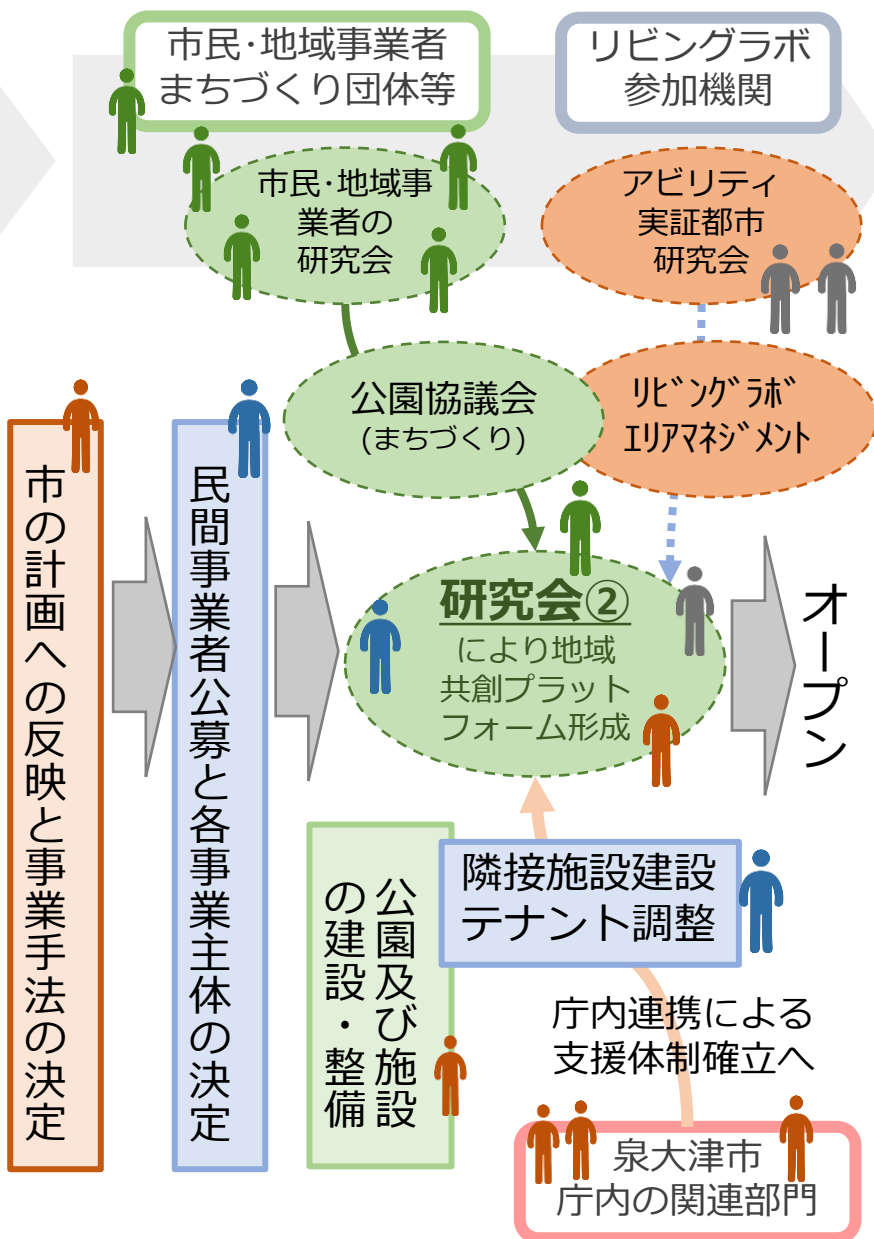
実現に向けた事業
性向上の検討と連
携促進

- ・各事業者の情報共有と事業性の検討
- ・泉大津市のまちづくりの理解と支援
- ・都市公園法改正、公園協議会等の理解
- ・地域市民・事業者のニーズ情報
- ・最適なパートナーとの連携推進
- ・欠落する機能やパートナーの誘導
- ・持続的な経営のための方策検討
- ・社会実験、先進施設視察など
- ・研究会の進め方(回数・場所他)検討

検討

想定コンセプト
にとらわれない
民間事業者からの
意見やアイデア

各事業者の要望、提案するコンセプトと事業内容



「アビリティ実証都市研究会」キックオフセミナーと第1回研究会

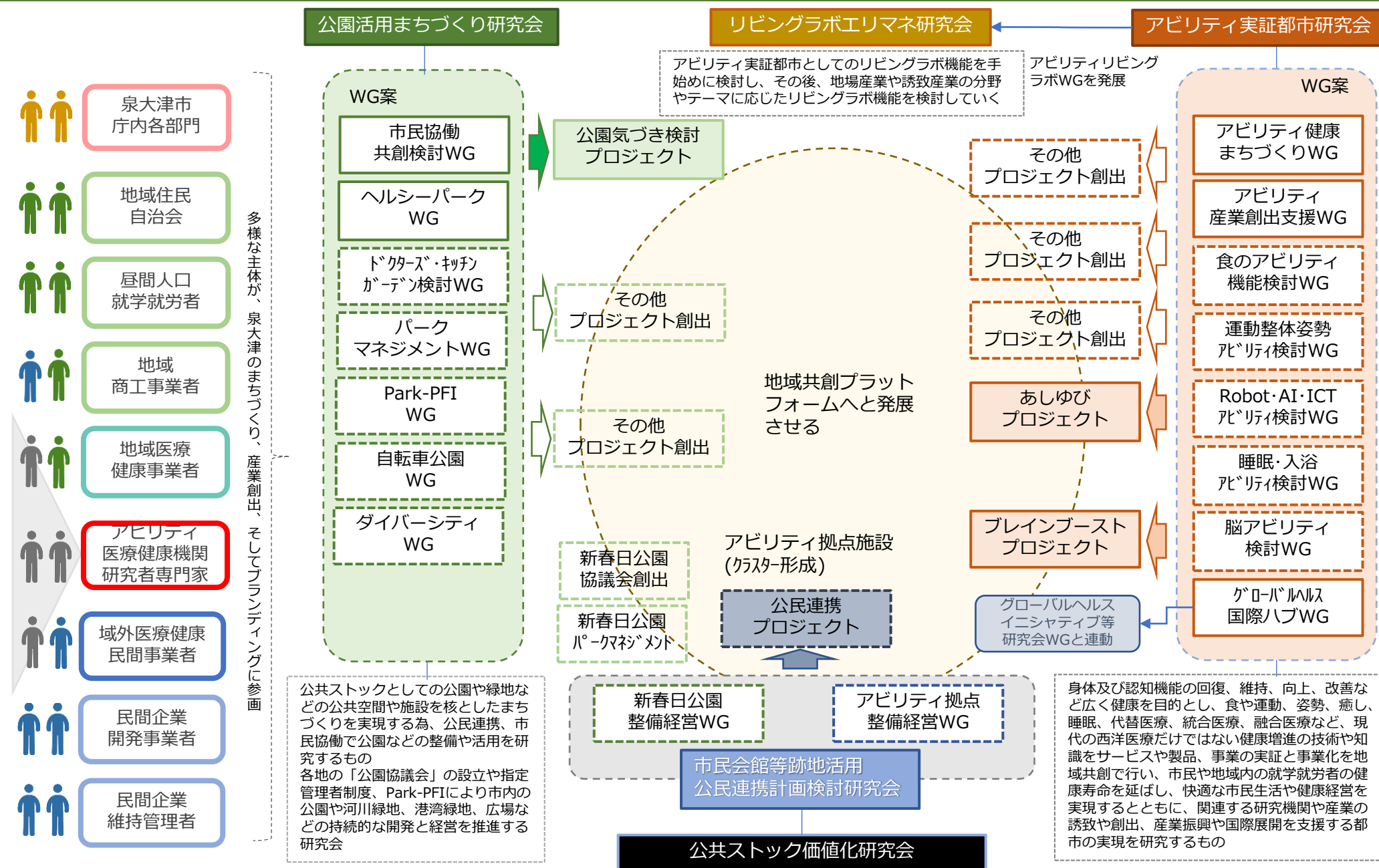
- ・主 催 : 泉大津市
- ・共 催 : グローバルヘルスイニシャティブ(GHI) ※
- ・後 援 : 近畿経済産業局、近畿農政局、大阪商工会議所、泉大津商工会議所、ほか
- ・日 時 : 2019年1月15日(火) 13:00~16:55
- ・会 場 : テクスピア大阪3階301会議室

◆キックオフセミナー

- ・テーマ : 「食と健康アビリティ」

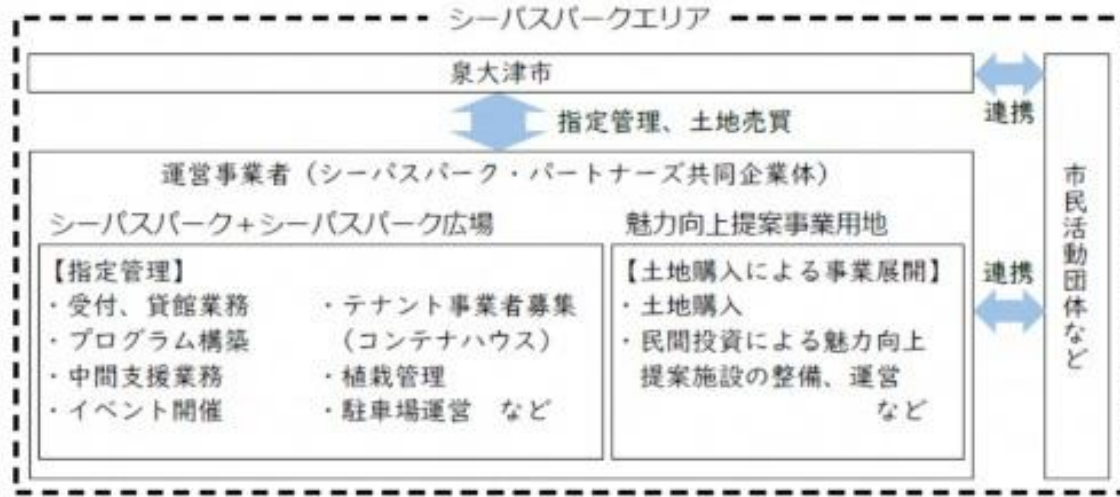
◆研究会ピッチ





都市公園と民活用地を一体整備、「シーパスパーク」
運営には150人超の市民組織が参加「シーパスパーク・クラブ」





「ガーブ グリーンウォーク」
2024年7月24日open



シーバスパークエリア		
公園用地	約 2.0ha	= 『シーバスパーク』
民間活用用地	約 1.5ha	= { 『シーバスパーク広場』 『魅力向上提案事業用地』 }

I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

事 例

岡山県西栗倉村



「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

西粟倉村：岡山県北東部、兵庫・鳥取との県境の村



人口 1,355人 (2023.3.31) 世帯数594

面積 57.97km² 93%が森林 (うち85%が人工林)

大阪から中国自動車道経由で2時間、特急スーパーはくとで約2時間

岡山県庁から車で約2時間 鳥取県庁から車で約50分



百年の もり 森林構想

地域には、捨ててはいけないものがあります。

苦労を重ねて地域を守ってきた先人のため、

これから生きていく子どもたちのため、

そして関わってくださるたくさんの方々のため。

約50年前に、子や孫のためにと、木を植えた人々の想い。

その想いを大切に、立派な百年の森林に育て上げていく。

そのためにあと50年、村ぐるみで挑戦を続けようと決意しました。

西栗倉村は、人口1600人ほどの源流域の小さな村です。

このような小さな村だからこそ、

未来に向けて心と心を丁寧につなぎあわせていくことができるはずです。

世代を超えて、そして地域を超えて、未来への想いを共有する森づくりへ。

そして大切な自然の恵みを大切な人たちと分かち合う上質な田舎づくりへ。

西栗倉村百年の森林構想

西栗倉の 森林の 100年

現在の西栗倉村の森林

50年後の森林。

私たちが目指すのは、
これから50年後の森林。

1年

25年

50年

75年

100年

元々林業で成り立っていた
この地で、約50年前に、子
や孫のために、苗木を植えた。

植林した苗木がすくすくと
育って行きます。密集した
木々は、上へ上へとその長
さをのばしていきます。

ある程度成長した木々の間
伐を行い、地面に日光が届
くよう、森の密度を調整し
ていきます。

木々の幹も太くなり根もは
り、保水林となり、したく
さなども経てきます。少し
ずつ鳥も棲む始めます。

しっかりと山に根ざし、木
の通り道として川も自然に
つくられます。山の動物た
ちのすみかとしても利用さ
れています。

年表で見る

西栗倉村と ローカルベンチャーの 歩み 2004-2021

木の里工房木業

ようび
西栗倉・森の学校

関野意匠室
+ 絵縁堂
(~2018)

sonraku
(~2020)

岡田林業

Nokishita
Toshokan B&B

フレル
(~2020)

ソメヤスズキ

ablabo.

じゅへく

mori no oto

酒うらら

くんちでん

nottuo

エーゼロ

小松組

工房
Kodama

いとう歯科
クリニック

帽子屋 UKIYO

クラシカ不動産部
(~2019)

クラシカ
(~2019)

青林

ミユウ

es
(~2019)

網島宗保子

チーズ観光協会

ローカル・
モビリティーズ

浪谷カバン

にしあわくら
モンテッソーリ
子どもの家

MAMO

おさじ

あわくら野々肉
(~2021)

JP-channel

T.R and
Design

むらまると研究所

あるの森

ネ

Nest

SAOL

ほんまもん

Reelee

MYCO.

SANSAI

ForestEye

motoyu

野々企画

百年の森林事業

百年の森林構想

百年の森林事業

西栗倉百年の森林協同組合設立

(株)百森設立

百森Redesign開始

あわくらトイプロジェクト

環境モデル 都市認定

薪ボイラーあわくら温泉元湯設置

地域熱供給システム / バイオマス発電開始

再生可能エネルギー事業

バイオマス産業都市認定

薪ボイラー あわくら荘設置

西栗倉発電所「めぐみ」リプレイス

薪ボイラー 黄金泉設置

西栗倉発電所「みのり」設置

ローカルベンチャー推進事業

ローカルベンチャースクール
実施(~2021)

ローカルライフラボ
実施(~2020)

西栗倉ローカルインキュベーションセンター
amoca設立

TAKIBIプログラム
開始

SDGsプロジェクト

SDGs未来都市選定

ローカルベンチャーで
働く人の人数

311人

※正社員・契約社員・パート・
アルバイト・地域おこし協力隊含む

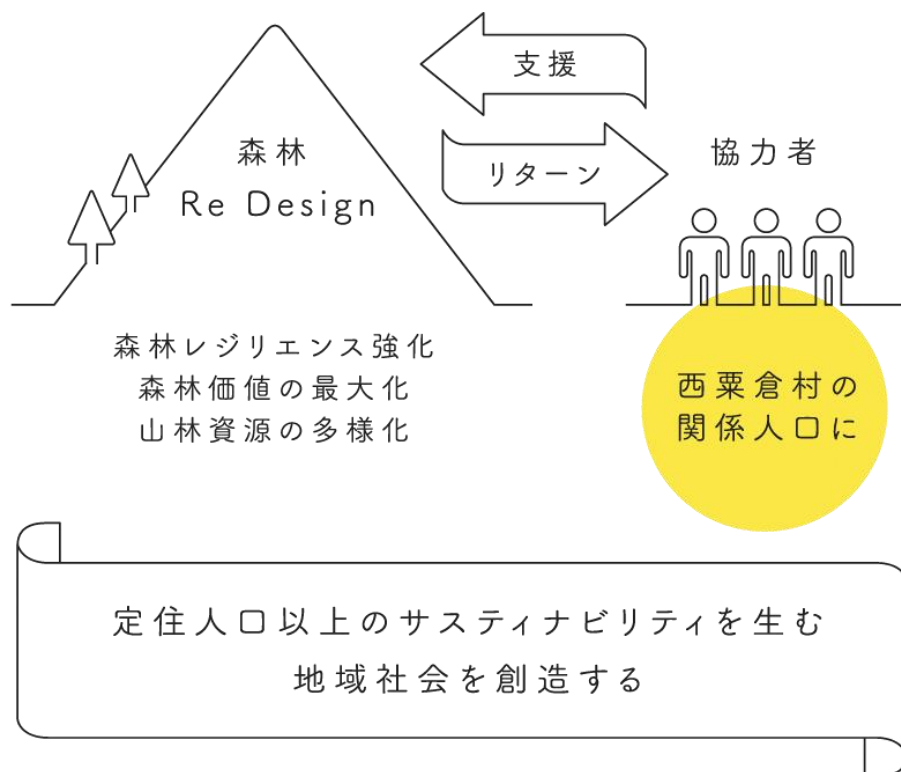
転入者数



合併しないことを選択

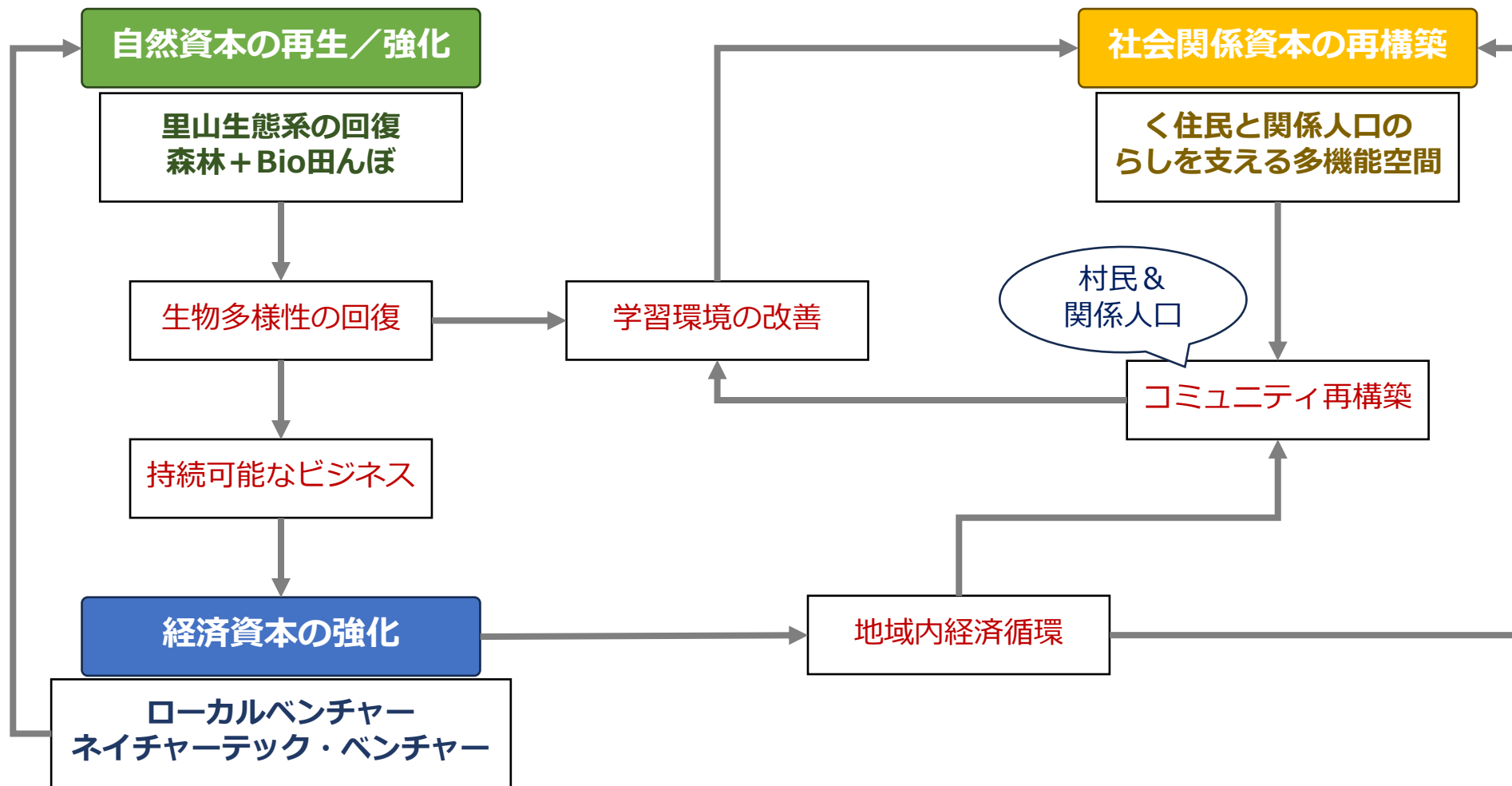
村のビジョン：「上質な田舎」「生きるを楽しむ」

人と自然が共存共栄し、自然資本、社会関係資本、経済資本が相互に循環して豊かになることを目指す



課題

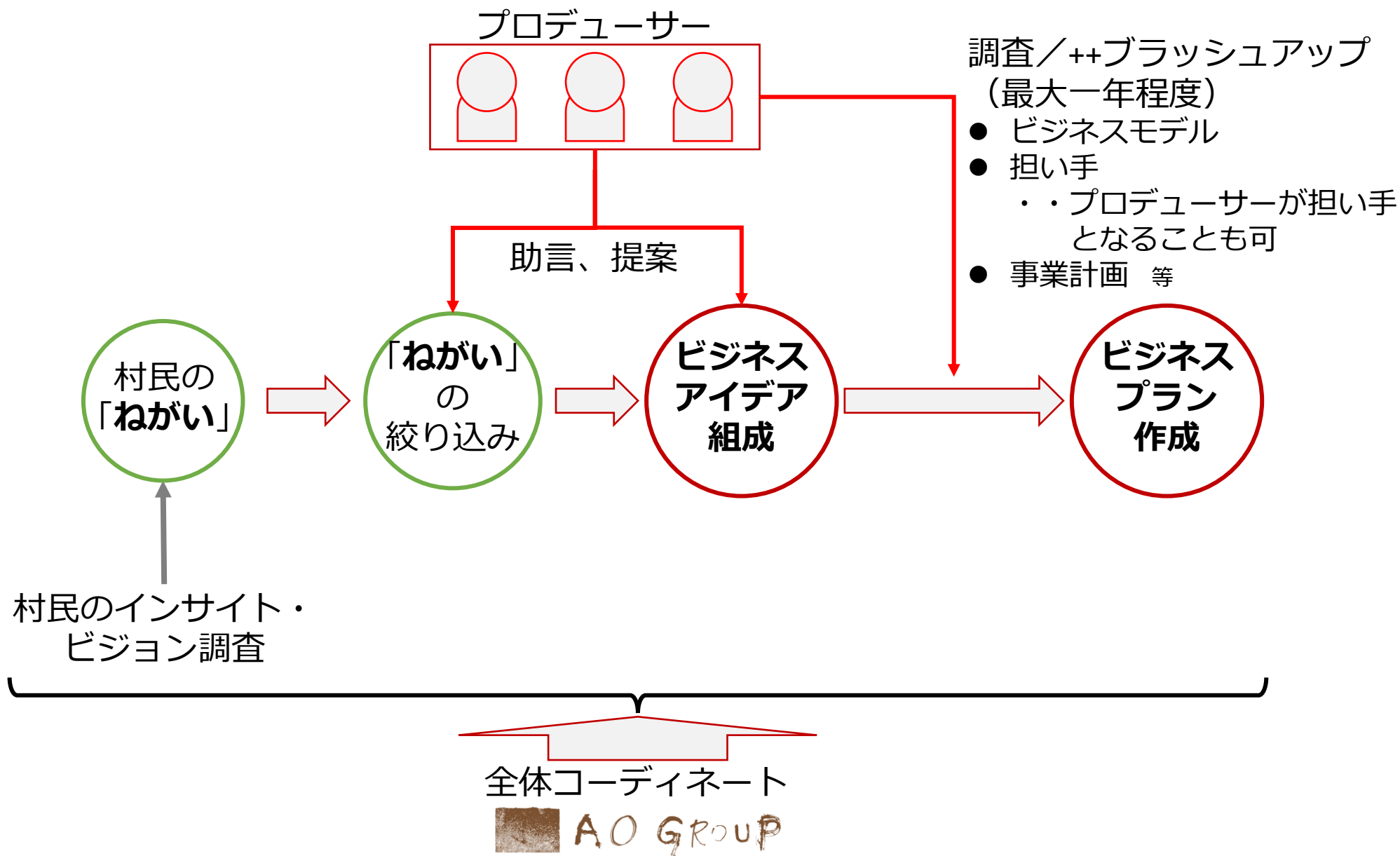
自然と人の暮らしが
相互に循環する
経済とコミュニティの
再構築

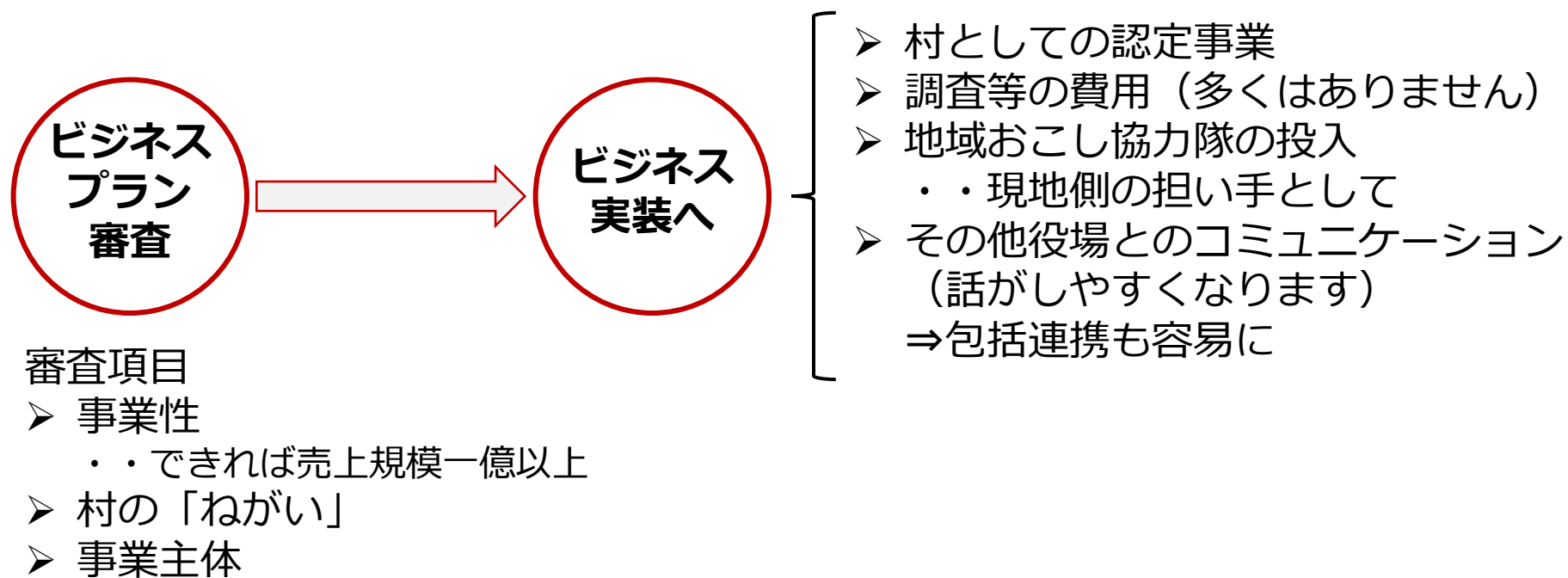


西栗倉村では
村外の事業者のみなさんと
事業を共創する枠組みとして

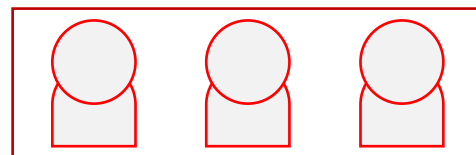
第2期地方創生推進交付金を用いた
「TAKIBI事業」
に取り組んでいます

>>村外の事業者が最もスムーズに関わる道筋





観光／飲食事業 W社他



助言、提案

資金調達
指定管理



観光施設の
活性化



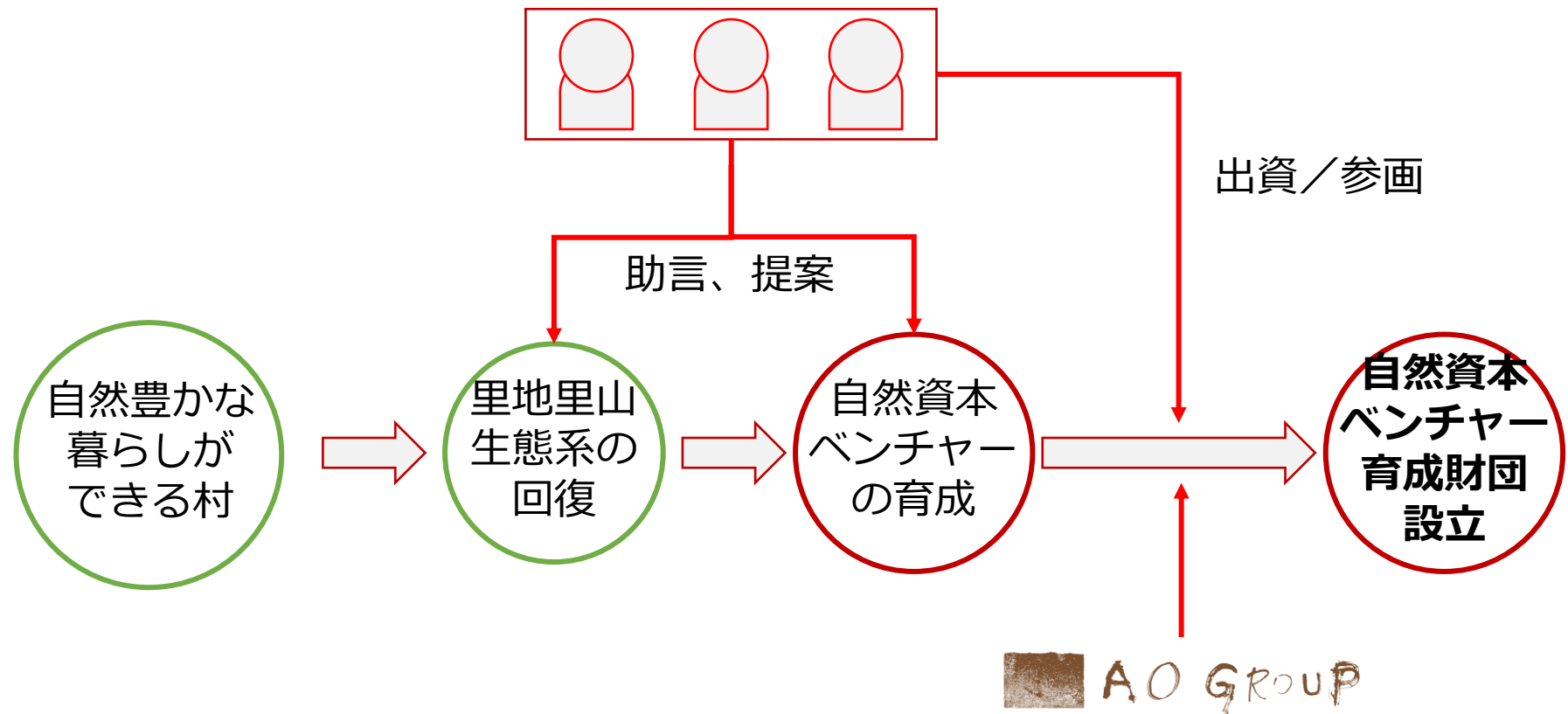
村有施設の
一帯運用

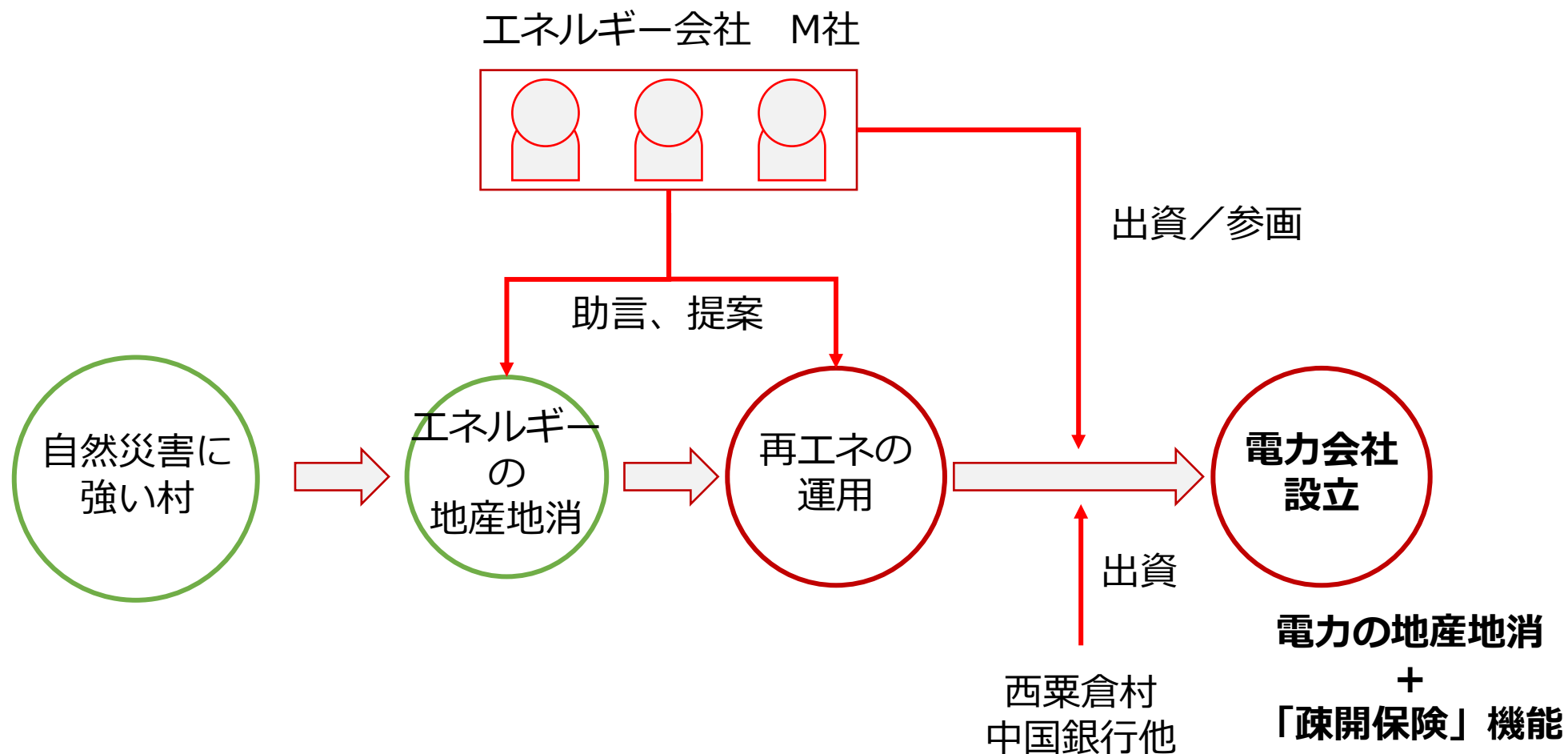


国民宿舎
建て替えと
道の駅との
一帯運用

NPO法人ETIC.

東京大学 生物多様性・生態系サービス分野 森研究室





キーワード：百年の森林と人のくらし

1 森林資源の活用：材としての価値＋新たな価値

2 森林とつながったくらしと家
村のランドスケープの再構築

3 移住者が村のくらしになじむ家
百年の森林の村にふさわしい家とくらし

4 村民の想いを大切にする空き家活用
百年の森林リフォーム
空き家信託

I. 自己紹介と共創のプラットフォーム

II. 町内外の地域経営資源を活用し、 地域課題解決や地域経営事業創出の主体になろう!!

III. 共創を実現するために

IV. 参考地域事例

事例1 沖縄県浦添市
「公民連携、市民協働の公園まちづくり」

事例2 大阪府泉大津市
「アビリティ実証都市の公民連携のまちづくりと公園」

事例3 岡山県西栗倉村
「ローカルベンチャー誘致のTAKIBI事業」

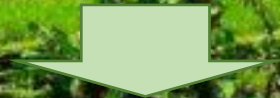
事例4 インドネシア・バリ島「ウブド」
「Re-ブランディングに成功した産業や文化」

事 例

インドネシア・バリ島「ウブド」

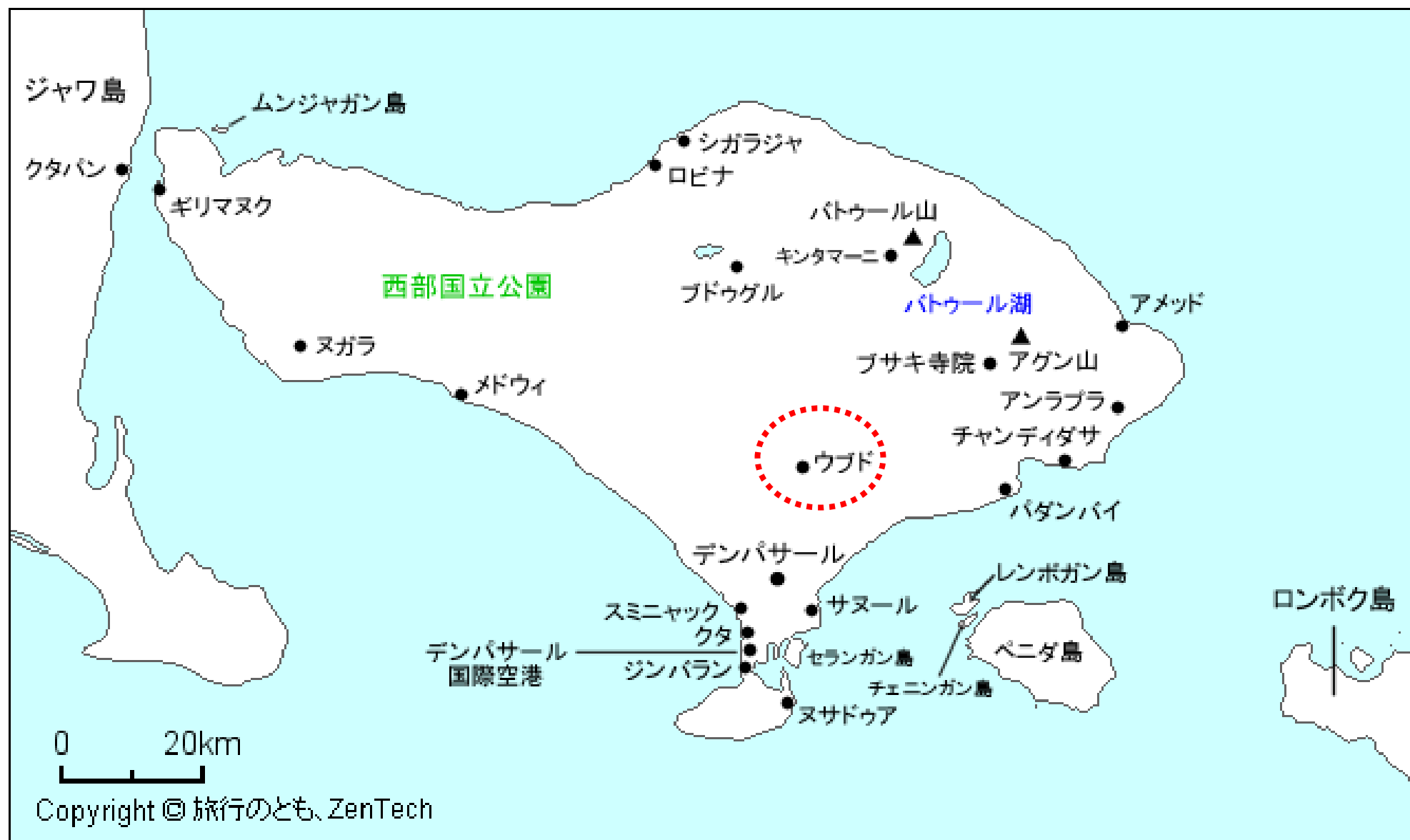


バリの自然、風景、文化、宗教、工芸、生活を洗練させるネオ・トラディショナルとしてのバリ芸術(バリ・モダニズム)としての新文化や工芸、観光などの新産業が生まれ、国際ブランド化





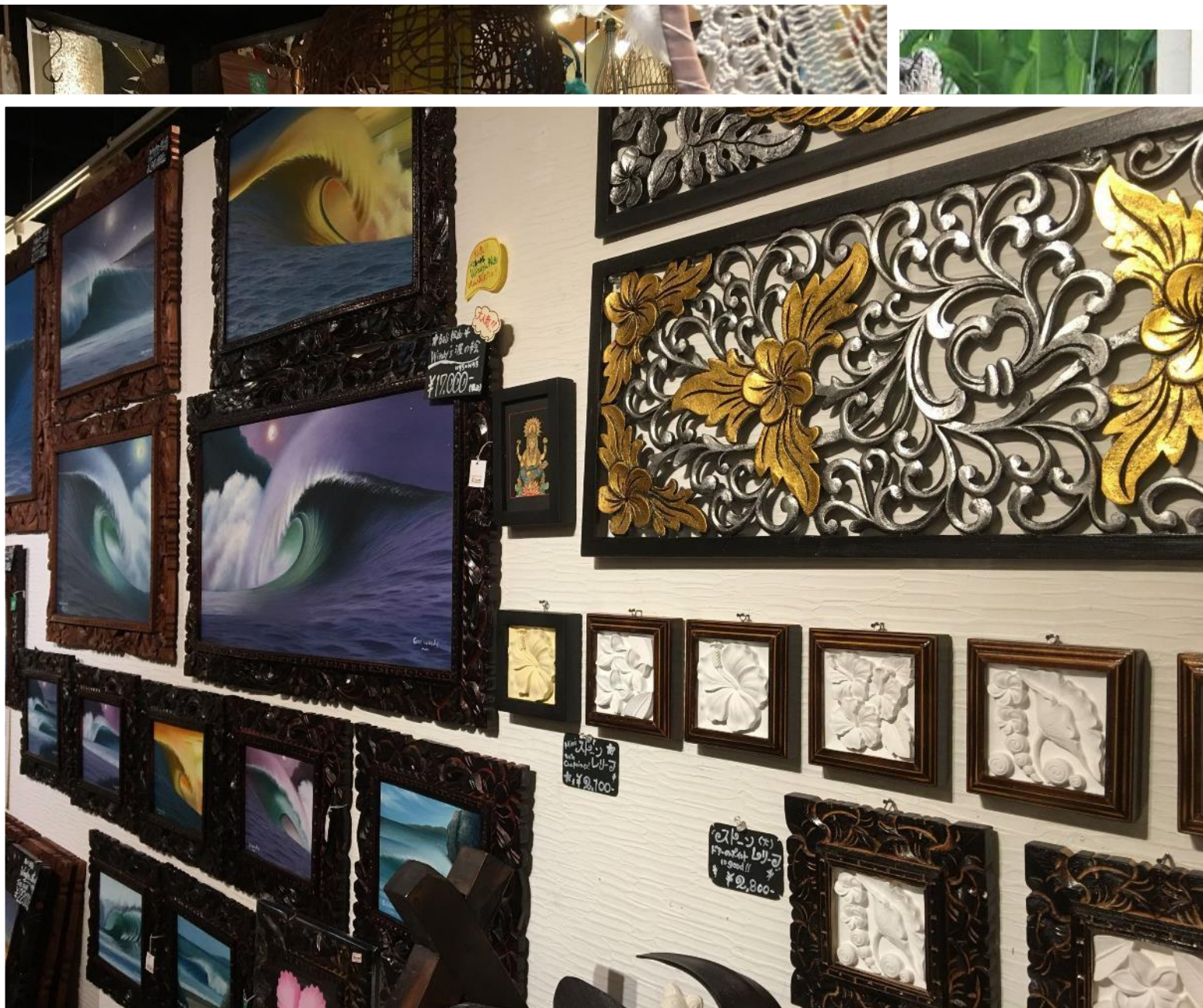
バリ州 ギャニャール ウブド郡 . . . 熱帯雨林、棚田、点在するヒンドゥー教の寺院

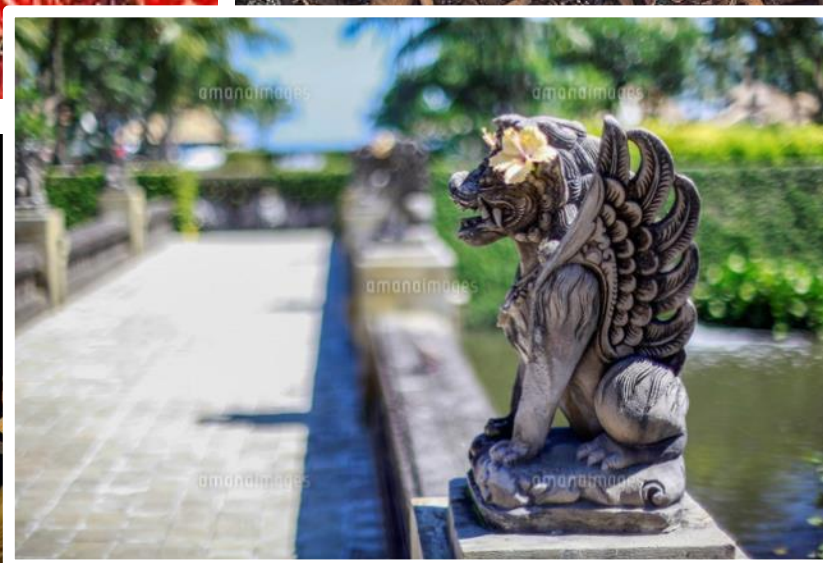




バリ島の景観や環境、伝統文化やデザインから産まれた
コロニアル建築やガーデンファニチャー









緑や伝統文化の景観や意匠をアレンジしたバリ風ガーデンファニチャー

















世界の市場ニーズに対応した、デザインや新商品が
バリのイメージと共に世界展開することになり、
そのイメージが、また観光客を引き寄せることになる。





バリの街歩いていると、学校があったり、お寺があったり、そしてオシャレなショップの裏には民家があったりと、観光をしながらでもバリの人々の生活を垣間見ることができます。バリの村や各家庭の配置は、バリ・ヒンドゥー教の方位決めに沿って決められます。といっても観光化が進むバリ島。南部や観光地では、その方位決めに基づいた美しい家々の並びは、どんどん失われているのが現状。そんな昔ながらのバリの村を見ることができるのが、バンリ県にある「プンリプラン村」。この村はインドネシア政府によって1993年に「観光村」に指定された新しく作られた村なのですが、バリの昔ながらの生活や村の雰囲気を守ることを趣旨として、実際に村に人々は住み、生活している「生きた観光村」なのです。





トパティ

バリ島のバティック工房が集まる村として有名な「トパティ」は、元々はジャワの王族や貴族が、ジャワで花開いたバティックにバリ独特の金細工を施すために、バティック職人をバリに送り、現地でバティックを作り始めたことがキッカケとなり、バティックの産地となった村。現在でもジャワ各地のバティック模様を始め、またバリ独特のモチーフのバティックなども作られます。中にはバティックの制作工程を見学できる工房もあり、観光ツアーに組み込まれることもあります。





バトゥブラン

「石（バトゥ）の月（ブラン）」という名のこの村は、石彫の村。南部からウブド方面へ向かう際には必ずこの村を通ります。大通りには左右ビッシリと石像が並び、バリの神様や魔除けのための石像、建物の装飾など様々な石彫が並びます。バリの伝統的なモチーフのものだけでなく、お店の看板や噴水など、モダンなモチーフのものも多く、旅行中にオーダーして日本に送ってもらったりもできます。





チュルク

シルバーの村「チュルク」は、金・銀細工の職人が集まる村。元々は王族の装飾品を作る職人がこの地に集められたのがきっかけとなり、現在でもたくさんのショップや工房が軒を並べています。表通りには大きなショップが並び、小さな脇道を入るとたくさんの職人の工房があります。一昔は「デザインは古臭いし、値段も高い!」と思われていた時期もありましたが、どんどん新しくセンスの良いお店も増えていて、あなどれませんよ～!



マス

寺院や王宮の木彫装飾品を作る村として栄えた村。現在でもその技術は親から子へと受け継がれ、村のあちこちから「トントン、カンカン…」と作業をする音が響き渡ります。マスの木彫の特徴は、「プワヤンガン」と呼ばれるワヤン・クリッなどで演じられるラマヤナ物語やマハーバーラタなどをモチーフとした繊細で手の込んだ彫刻。最近では伝統的なモチーフ以外にも様々なテイストの木彫りが並んでいます。また木彫だけではなく、木製家具のショップも多いし雑貨ショップなどもあります。



ポナ

竹細工の職人が集まる村で、ベッドやソファなどの大型の家具などがメインで作られている村。竹はウブド近郊やキンタマーニ、タバナン、ブドゥグルなど様々な場所から集められ、この村で形になります。一時期日本人旅行者に絶大なブームとなったバリのバンブー雑貨は、バリ・テイストだけではなく、どこか懐かしい日本の昔を彷彿とさせるものも。最近では環境に優しいエコな素材として、再注目されています。





テガララン

「木彫の村・マス」とは少し異なった雰囲気のアガラランは、入り組んだ地形に作られたライステラスが、まるで天国への階段の様に美しい、ウブド郊外の観光名所。そしてウブドからライステラスまでの間の村のメイン・ストリートには、色とりどりのバリ雑貨が並ぶことで有名なんです。昔からの定番のバリネコやキリンの置物などは根強く今も残っていますが、毎年少しずつトレンドが変わり、新しいアイテムが並ぶので要注意！ライステラスの観光ついでに車窓からお気に入りのものを探してみてもいいでしょう。





トゥガナン

元々はウブド近郊のブドウル地区に住んでいた先住民族が、マジャパヒット王国の侵攻により、彼らとの交わりを避けるために移り住んできたと言われる「トゥガナン村」。ここは他のバリ・アガの村と比べても、特に独自の文化や風習を守り続けている数少ない村です。またトゥガナン独特の織物「グリーンシン」や、アタ雑貨の発祥の地としても有名で、たくさんのバイヤーが訪れる場所でもあります。





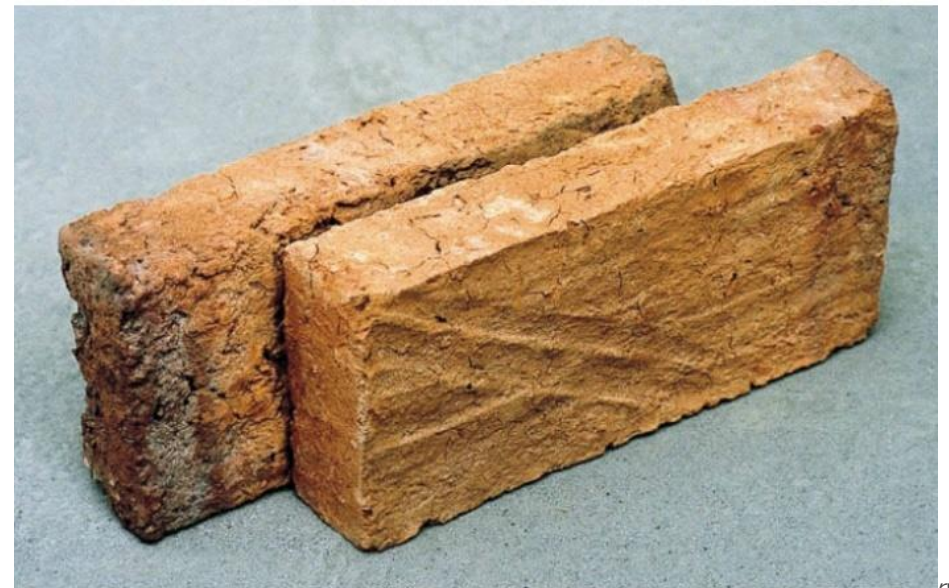
ラマダビンタンバリリゾート





©Lembah Spa







ガムランと舞踊



ガムランボール



ケチャ



ケチャのルーツ (出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』)

バリ島の伝統的な舞踏、サンヒャンは、疫病が蔓延したときなどに初潮前の童女を媒体にして祖先の霊を招き、加護と助言を求めるものであった。これに対して現在のケチャは、『ラーマヤナ』の物語を題材とする舞踏劇の様式で演じられている。こうしたケチャの「芸能化」がすすめられたのは、1920年代後半から1930年代にかけてバリ人と共にバリ芸術を発展開花させたドイツ人画家、ヴァルター・シュピースの提案によるものであった。シュピースは、1920年代後半からウブド村の領主チョコルド・グデ・ラコー・スカワティに招かれてウブドに在住した画家・音楽家であり、現地の芸術家と親交を結びながらケチャやバリ絵画などの「バリ芸術」を形作っていった。ある著名なバリ人舞踏家がサンヒャン・ドゥダリの男声合唱にバリス舞踊の動きを組み込ませたのを見たシュピースは、ガムランの代わりにこの男声合唱のみを使って『ラーマヤナ』のストーリーを組み込んだ観賞用の舞踊を考案するよう、提案したのである。

シュピースの提案を受けたプドウル村の人びとが、1933年にボナ村の人びととともに、総勢160名で試みたのが最初のケチャであるとされる。その2年後の1935年にボナ村の人びとがさらに発展させたケチャを上演し、これが今のケチャの原型になった。

こうして、その後の1950 - 1960年代頃には、一般に観光向けに上演される舞踏劇としての様式が確立した。今日、最も盛んなプリアタン村でケチャが始まったのも1966年である。さらに、ケチャはバリ島のみならず世界に広がり、日本では芸能山城組が上演している。山城組は1972年にバリ人以外で世界で初めて上演して以来、毎年新宿三井ビル55ひろばにて、ケチャまつりが行なわれている。他のバリ舞踏でも言われることであるが、ケチャは各地の舞踏団により出演人数・技能水準が大きく異なる。



ヴァルター・シュピース

なお、数人で行われるコミカルな合唱も、広く一般に「ケチャ」と呼ばれている。

芸術の村ウブド

こうして、彼ら欧米人の影響を受け、1930年代のバリは「バリ・ルネッサンス」の時代を迎え、現在の観光の目玉である音楽（ガムラン等）、舞踏（レゴン、ケチャ等）、絵画の様式が確立することとなった。

この中心にいたのは、ウブドの領主であるチョコルダ・スカワティー族に招待されたドイツ人の画家で音楽家である「ヴァルター・シュピース」とオランダ人画家「ルドルフ・ボネ」である。

ヴァルター・シュピースの家には、メキシコの画家ミゲル・コバルビアスやカナダの音楽研究家コリン・マックフィー、人類学者のマーガレット・ミード、グレゴリー・ベイトソン、オーストリアの作家ヴィッキイ・バウムなどが集った。彼/彼女らは、総じて「真正なバリ」へとそのまなざしを向け、「バリのバリ化」を進めることになった。

彼らにバリ人のニョマン・レンパッドやマデ・ナデラら地元の農民工芸家たちが加わり、芸術家協会ピタ・マハ（偉大なる光）が設立された。地元芸術家たちの技術の向上と、その作品を正統な価格で取引することが目的であった。

バリ芸術

アルマ美術館(Agung Rai Museum of Art)



ネカ美術館(Neka Museum)



ビダダリ・アート・ギャラリー
(Bidadari Art Gallery)



アントニオ・ブランコ美術館
(The Blanco Renaissance Museum)



プリ・ルキサン美術館
(Museum Puri Lukisan)





ご清聴ありがとうございました。



廣常啓一